

第三十條 外國人其所有ノ人力車ニ乘リ夜中燈火ナクシテ疾驅スルキハ車夫ニ向ヒ第二十
七條ノ例ニ從ヒ説諭スヘシ尤モ雇人力車ナルキハ車夫ノ住所氏名ヲ聞糺シ放遣シ直ニ告
發ノ手續ヲナスヘシ

第三十一條 外國人車馬止ノ榜示ヲ犯シテ通行セントスルキハ車夫馭者馬丁ニ向ヒ説諭シ
テ引戻サシムヘシ若シ外國人又ハ車夫馭者馬丁ニ於テ引戻ヲ肯セサルキハ其住所氏名等
ヲ聞糺シテ放遣シ之ヲ警部ニ申報スヘシ

雇馬車人力車若クハ借馬ナルキハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 公使館雇ノ内國人違警罪ヲ犯シタルハ犯人ノ住所氏名ヲ聞糺シ直チニ告發
スヘシ若シ其住所氏名ヲ詳述セス又ハ逃走セントスル者ハ警察署ニ引致スヘシ

第三十三條 人家稠密ノ場所ニ於テ發砲シ或ハ火技(線香花火鼠花火等)ハ此限リニアラスヲ弄フ者アル時ハ
穩ニ之ヲ制止シ其國號氏名居留處旅宿等ヲ聞糺シ名刺ヲ請取り警部ニ申報スヘシ
若シ制止ヲ背セスシテ止ムヲ得サルキハ差押ユルモ妨ナシ

第三十四條 外國人出火場ニ於テ消防ノ妨ヲ爲シ又ハ乘馬スル者アル時ハ穩ニ説諭シテ其
場ヲ退去セシムヘシ

第三十五條 外國人ノ家畜類内國人ヲ傷害スルキハ直ニ取押ヘ繋鎖ヲ施シ畜主ニ引渡ス
ヘシ若シ狂獯ニシテ取押ヘ難キ時ハ畜主ノ承諾ヲ得テ撲殺スヘシ尤モ承諾ヲ得ルニ違フ
ラサル場合ニ於テハ確實ナル證人ヲ立テ之ヲ撲殺スルモ妨ナシ

但シ其傷害ニ係ル要償ノ如キハ雙方ノ示談ニ任スヘシ

第三十六條 居留地外ノ旅宿其他ニ於テ私ニ外國人ヲ止宿セシメ又ハ居留地外ニ住居スル
官私雇外國人ノ家宅ニ同居若クハ止宿スルヲ見聞シ事實ヲ確知シタルニ於テハ警部ニ
申報スヘシ

第三十七條 居留地外ニ於テ外國人ノ商業ヲ營ムヲ見聞シタル時ハ禁止ノ旨中諭シ其國號
氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ直ニ警部ニ申報スヘシ

但既ニ商業ヲ爲シタル證蹟アルモノハ證據物件ヲ取纏メ速ニ警察署ニ送致スヘシ

第三十八條 外國人ノ住居ヨリ出火スルハ臨機消防ニ従事スヘシト雖モ家主請求スルコト非レハ室内ニ入り又ハ物品ヲ運搬シ家屋墻塀等ヲ破毀ス可ラス

第三十九條 外國人途上ニ於テ醉倒スルヲ認ムル時ハ懇切ニ介抱シ住處氏名ヲ問ヒタル上本國領事官ニ引渡スヘシ領事官駐在セサル地ニ在テハ本人住居又ハ最寄ニ於ケル其相知者ノ許ニ送り達スヘシ住所分明ナラサル者ハ警察署ニ連行キ醉ノ醒ルヲ俟テ國號氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ放遣スヘシ

第四十條 外國人不慮ノ危難ニ遇フヲ見聞スル時ハ直チニ之ヲ救護スヘシ

第四十一條 外國人喧嘩爭鬪ヲ爲シ若クハ暴行等ノ所爲アルキハ穩ニ之ヲ制止シ尙ホ肯セサルキハ差押ヘ且警察署ニ引渡スヘシ

第四十二條 外國人途上ニ於テ發病困難ノ趣ヲ目聞シタル時ハ速ニ相當ノ手當ヲ施シ其國號氏名居留處旅宿等ヲ問ヒ直ニ警部ニ申報スヘシ

第四十三條 外國人途上ニ於テ變死シタルモノアル時ハ其原狀ヲ變セサル様取締ヲ爲シ速

ニ警部ニ申報スヘシ

第四十四條 外國人市街ヲ歩行シ又ハ買物等ヲ爲ス時內國人數人取圍ミ見物スルヲ撞見セシ時ハ制止スヘシ

○賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ攜帶シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリモ之ニ立入リ得但警察官巡查ハ其證票ヲ攜帶スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細目ハ警視總官府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルヲ得

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候得共當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム
(明治十七年一月二十一日第十號達)

本年第壹號布告ニ據リ懲罰ニ處シタル賭博犯人ハ明治十四年(九月)第八十一號達監獄則第一條第五項禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ準シ服役其他ノ方法共總テ該則ニ依テ處分スヘシ此旨相達候事

第四類 行政

○煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス
煙草製造人(葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者)

煙草仲買人(葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者、製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者)

煙草小賣人(製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者)
第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルルキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス
證約金ハ營業場一箇所毎ニ五十圓以上五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳

ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帯シ又ハ携帯セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一個年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一個年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一個所ニ付一個年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ

但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用

スヘシ

第九條 製煙造草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得

但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ

買受借受讓受シルコトヲ得ス

但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラルハ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス
煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯タル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製

造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス
煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス
但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

煙草稅則

證券賦稅規則

百七十八

後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受テ煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀

ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ

委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ス日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣

捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過テ賣捌クニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自

ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○證券印稅規則

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通り改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行

ス

但明治八年七月第二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘ

シ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲ケル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

但當座限リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一 當座預リ金引出小切手 印稅五厘

一 委任狀 同 五厘

一 金高記載ヲキ約定證文 同 壹錢

一 遺物證文 同 壹錢

一 跡式讓證文 同 壹錢

證券印稅規則

百七十九

證券印稅規則

- 一 讓與證書 印稅壹錢
- 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹錢
- 一 耕地小作證文 同 壹錢
- 一 雇入請合狀 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹錢
- 一 地所預リ證文 同 壹錢
- 一 諸物品切手 同 壹錢
- 一 借地證文 同 壹錢
- 一 借家證文 同 壹錢
- 一 賣買仕切書 同 壹錢
- 一 保險證文 同 壹錢
- 一 諸會社株券 同 壹錢

- 一 送金手形 同 壹錢
- 一 金 錢 通帳 一年以内一冊ニ付 同 壹錢
- 一 諸物品 同 壹錢
- 一 金 錢 判取帳 同 廿錢
- 一 諸物品 同 廿錢
- 一 結社約定書 同 壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナキト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲ケル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 營業ニ關スル送狀 印稅壹錢
- 一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢

右諸證書ヲ通帳トナストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲ケル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但

證券印稅規則

證券印稅規則

百八十三

爲替手形約束手形手形用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文

土地所賣買證文

一金高記載アル諸物品預リ證文

一金高記載アル諸物品借用證文

諸物品賣買證文

一金錢定期預リ證文

一金高記載アル諸般契約證書

一金高壹圓以上二十圓未滿

印稅 壹 錢

一金高二十圓以上五十圓未滿

印稅 二 錢

一金高五十圓以上百圓未滿

印稅 四 錢

一金高百圓以上百五十圓未滿

印稅 六 錢

一金高百五十圓以上二百圓未滿

印稅 八 錢

一金高二百圓以上三百圓未滿

印稅 十一 錢

一金高三百圓以上四百圓未滿

印稅 十四 錢

一金高四百圓以上六百圓未滿

印稅 二十 錢

一金高六百圓以上八百圓未滿

印稅 廿六 錢

一金高八百圓以上千圓未滿

印稅 三十二 錢

一金高千圓以上千四百圓未滿

印稅 三十八 錢

一金高千四百圓以上千七百圓未滿

印稅 四十四 錢

一金高千七百圓以上二千圓未滿

印稅 五十 錢

一金高二千圓以上二千五百圓未滿

印稅 六十 錢

一金高二千五百圓以上三千圓未滿

印稅 七十 錢

一金高三千圓以上三千五百圓未滿

印稅 八十 錢

證券印稅規則

百八十三

證券印稅規則

百八十四

金高三千五百圓以上四千圓未滿

印稅九十錢

金高四千圓以上

印稅一圓

右諸證書ヲ通帳ト爲スルハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ證文

一貨物預リ證
小札

金高壹圓以上二十圓未滿

印稅壹錢

金高二十圓以上

同 二錢

右諸證書ヲ通帳ト爲スルハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅二錢

金高百圓以上

同 四錢

一爲替手形

一荷爲替手形

一約束手形

金高五十圓未滿

印稅壹錢

金高五十圓以上百圓未滿

印稅二錢

金高百圓以上二百圓未滿

印稅四錢

金高二百圓以上五百圓未滿

印稅八錢

金高五百圓以上千圓未滿

印稅十五錢

金高千圓以上二千圓未滿

印稅二十五錢

金高二千圓以上

印稅五十錢

第三條 前條ニ掲グル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照ラシ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

證券印稅規則

百八十五

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル后印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニアラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニアラサレハ之ヲ賣捌シテ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ従事スル

モノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス受取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スル者ハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナル者ヲ雜記スルキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタ

ルキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ

附記ヲ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方ハ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ付シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高

ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受ケル后證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當印

紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用

紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處

ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消

印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取リタル者亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル

科料罰金半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及第十四條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタル者ハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ

罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ

用ヒス

○遺失物取扱規則

遺失物取扱規則

遺失物取扱規則

百九十

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノ

ヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直ニ之

ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論ズルヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサルハ之ヲ官ニ送ルヘシ

官之ヲ榜示シ一年內其主ナキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數并ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ク詳細ニ記

載シ速ニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ルキモ又更ニ其旨ヲ届出シ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報

勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラズニ拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者

ト其價額ヲ爭フキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ此ク

其費用ノ三分償ハシム

第六條 官私ノ地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサル

モノハ地主ノ所有ニ販スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルキハ之ヲ地主ト中分セシム

但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルキハ迅速ニ之ヲ官

ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ

官ニ報シ及得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀

損スルキハ律ニ照ラシテ處分ス

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサルハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主

ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜

示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ル者ハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物

遺失物取扱規則

百九十一

遺失物取扱規則

ニ異ナルコトナシ

第十一條 凡警察官吏タルモノハ所部ノ内外ヲ問ハズ遺失ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ没ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス并ニ官ニ没ス

第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セズ或ハ物主ヲ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ并ニ律ニ照シテ處分ス

(明治十年九月二十七日内務省甲第二十號布達)

明治九年(四月)太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ヲ中古代ノ沿革ヲ徵スル者モ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人ヘ下付

該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨布達候事

但シ物品ハ先ツ掘出地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ其見込ニアルモノニテ遞送方相達候后本文ノ通り可取計候事

第五類 違警罪

○違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲ス

又被告人ヲ呼出スコトナシ若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

違警罪即決例

違警罪即決例

百九十四

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經テ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及正式ノ裁判ヲ請求スル旨ヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出テヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立チ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サハル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナルハ其日數ニ過シルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受シヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒收シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解シヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入ス

違警罪即決例

百九十五

參照

第三十一號布告

明治十四年九月第四十四號布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムテ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

明治十四年十二月第八十號布告

本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシムヘシ

○刑法第四編違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上二

圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破烈スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破烈ス可キ物品又ハ自テ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ビタル者
- 五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲ササル者
- 七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 十 密ニ淫賣ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

(明治十四年第六十四號布告密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明

文有之候得共當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

- 十一 一人ノ住居セサル家屋内ニ潛伏シタル者
- 十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
- 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上

- 一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

- 五 人ノ通行スヘキ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サル者
- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十 墓碑及路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
- 十一 神祠佛龕其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上

- 一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

刑法第四編違警罪

三百

三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者（十五年太政官第二十二號達刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者）

ト有之候處軍人制服ヲ着用乘馬シタルモノハ此ノ限リニ無之候條此旨相違候事

四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者

五 瓦礫ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

七 汚穢物ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者

十一 流言浮説ヲナシテ人ヲ誑惑シタル者

十二 妄リニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

十三 私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒檻ヲ出シタル者

十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店ヲ開キタル者

十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ圍等ヲ毀損シタル者

十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料

ニ處ス

一 官署ヨリ定價ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二 渡般橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者（明治十四

年乙第六十二號內務省達人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ニ無洩可相達此旨相違候事○十五年乙第十八號全省達前文前達同様郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配（特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ配達スルトキ）ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ニ無洩可相達候此旨相違候事

四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

刑法第四編違警罪

二百一

- 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
- 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
- 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
- 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
- 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戲ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クニ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙又ハ樂書シタル者
- 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ折採シタル者

十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八 道路ナキ他人ノ田畝ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽キ入タル者
第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニ依リ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者
ハ其罰則ニ從テ處斷ス

○東京現行違警罪

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處セラルヘシ

- 一 街路取締規則ニ違背シタル者
- 二 火葬場取締規則ニ違背シタル者
- 三 畜犬規則ニ違背シタル者
- 四 馱者馬丁又ハ人力車挽等取締規則ニ違背シタル者

五 諸藝人取締規則ニ違背シタル者

六 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ墮着ノ干場ヲ設ケタル者

七 神佛祭典等ノ節強テ出費ヲ促シタル者

八 強テ合力ヲ申掛ケ若クハ物品ヲ押賣シ其他種々ノ所爲ヲ以テ他ニ妨ケヲ爲シタル者

九 工事等ノ際雇使スル者ヲ故障シタル者

十 裸體又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露シ其他醜體ヲ爲シ路上ニ步行シタル者

十一 夜間十二時後歌舞音曲等其他喧噪シテ他ノ安眠ヲ妨ケタル者「但訴テ待ツテ其罪ヲ論ス」(十六年甲第三號)本項但書刪除

十二 海龜魚類等ノ干場ヘ妨害ヲ爲シタル者

十三 制限ニ背キタル筏ヲ河川ニ浮ヘ又ハ運送シタル者

十四 濫リニ川中ヘ杭木ヲ打建タル者

- 十五 外國人ヲ私ニ止宿又ハ雜居セシメタル者
- 十六 各所ニ榜示セル禁條ヲ犯シタル者
- 十七 新聞紙雜誌雜報類ヲ路上ニ讀賣シタル者
- 十八 紙屑拾ヒノ者官ノ檢印アル名札ヲ貸借シ又ハ其記名ヲ變更シ若クハ名札ヲ屑籠ニ表出セサル者
- 十九 旅人宿ニ於テ郷貫氏名ヲ詐稱シタル者
- 二十 擅ニ瘋癲人ヲ鎖鋼シタル者(十七年甲第 四號填補)
- 二十一 人ニ汚穢物及ヒ瓦礫等ヲ抛擲セシ者(十五年甲第 七號追加)
(十六年甲第一號 左ノ四項追加)
- 二十二 警察官ノ臨檢ヲ受ケスシテ改葬又ハ合葬ヲ爲シタル者
- 二十三 河岸地規則ニ違背シタル者
- 二十四 免許ヲ得スシテ產婆ノ業ヲ爲シタル者

- 二十五 產婆營業者醫師ノ指揮ヲ受ケスシテ產科器械ヲ使用シタル者
- 二十六 燃賣物置場規則ニ違背シタル者(十六年甲第 五號追加)
- 二十七 死亡届並ニ埋葬規則ニ違背シタル者(十六年甲第 十號追加)
- 二十八 正當ノ事故ナクシテ官署ノ召喚ニ應セサル者(十八年十二月廿八日甲第十九號追加)
- 二十九 焚料等ノ目的ヲ以テ街上又ハ河中ニ於テ竹木ヲ聚拾スル者(十九年一月六日 甲第二號追加)
- 三十 管應ニ於テ賣買ヲ禁止又ハ停止シタル物品ヲ買取リ若クハ販賣シタル者(十九年一月十四日甲 第五號追加)
- 三十一 入齒々抜口中療治接骨營業取締規則ニ違背シタル者
- 三十二 鍼灸術營業取締規則ニ違背シタル者(十九年二月四日 甲第七號追加)
- 三十三 橋梁及路上ノ厠場其他建設物ニ貼紙樂書シ又ハ之ヲ汚瀆シタル者(十九年五月廿五日警令 第四號 追加)

○街路取締規則 明治十五年甲第八號改定

街路取締規則

第一條 街路ニ建物ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シ其他標旗招牌物干等ヲ建設或ハ突出スヘカラス
但シ釣看板ニ限リ道敷ヘ貳尺マテ掲出スルモ妨ケナシト雖モ地盤ヲ距ル高サ一丈以上ニ
シテ最モ堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ

第二條 居住者其家屋前ノ道敷ヘ商品薪炭荷重其他ノ物件ヲ排列突出スヘカラス但シ標燈
ハ一尺日除ハ(綿布等ヲ以テスル者ヲ限リ)三尺以内道敷ヘ張出スヲ得尤モ通行ノ妨害ト認ムルハ取
除カシムコトアルヘシ(十六年甲第八號ニテ改正)

第三條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添ヘ警視廳ヘ願出允許ヲ請フヘシ
一 路傍ニ床店設賣張ヲ設ケ又ハ路上ニ火ノ見櫛子ヲ建テントスル者
二 神佛開扉等廣告ノ爲メ路傍ニ建札ヲ爲サントスル者

第四條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出允許ヲ請フヘシ
一 一時街路ニ於テ荷造リ又ハ木挽等ヲ爲サントスル者
二 工事ノ爲メ材木土石類ヲ街路ニ置キ或ハ板圍繩張足代等ヲ設ケントスル者

三 街路ヲ經テ家屋土藏其他建物ヲ運搬シ及ヒ通行停止ノ榜示アル場所ヲ出入セントス
ル者

四 街路ヘ一時舞臺(神佛祭典等ノ節)及ヒ小屋掛(歳ノ市草ノ市節)等ヲ設ケントスル者

五 神輿ヲ巡行シ及ヒ街路ニ山車又ハ手踊屋臺等ヲ出サントスル者

六 防火具等公衆ノ用ニ供スル諸器具ヲ路傍ニ置カントスル者

七 工事等ノ爲メ一時道路ノ通行ヲ停止セントスル者

八 路上ニ街燈指道標ヲ建又ハ路傍ニ柵欄支柱ヲ設ケ若シハ齒止石ヲ置ントスル者
(十七年甲第十六號ニテ五條ヨリ七條マテ三ヶ條改正)

第五條 左ノ諸件ニ係ル者ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ東京府廳ヘ願出テ允許ヲ乞フヘシ
一 街路ニ樹木ヲ植ヘ井戸ヲ穿テ目塗土置場ヲ設ケ又ハ之ヲ廢除シ或ハ修理セントスル
者
二 官費又ハ地方税ノ負擔ニ屬スル道路ヲ修理セントスル者

三 大下水及其線路ニ係ル横切下水ヲ改造修理又ハ浚渫セシトシ或ハ蓋ヲ設ケ橋ヲ架セ
ントスル者

四 各地主ノ負擔ニ屬スル道路ヲ開閉シ又ハ其位地幅員ヲ變更セシトスル者

五 各地主ノ負擔スル地方下水ヲ新設改造又ハ修理セシトスル者

第六條 左ノ諸件ニ係ル者ハ其場ノ圖面ヲ添へ郡區役所へ願出テ允許ヲ請フヘシ

一 區町村費ノ負擔ニ屬スル道路ヲ修理セシトスル者

二 區町村費ノ負擔ニ屬スル下水ヲ新設改造修理セシトシ或ハ蓋ヲ設ケ橋ヲ架セシトス
ル者(十八年甲十三號ニテ
又ハ浚渫ノ四字削除)

第七條 允許ヲ得テ路上ヲ使用シ又ハ掘鑿スル者ハ毀損シタル地盤ヲ其原形ニ復スヘシ

第八條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置ク者ハ鎖鎖其他強固ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束ス
ヘシ

第九條 街路ニ沿フタル場所ニ薪炭其他ノ物品ヲ堅牢ノ裝置ナクシテ高さ二丈以上ニ堆ス

カラス

第十條 街路ニ沿タル建物及ヒ樹木等崩壞顛仆ノ虞アル者ハ速ニ修理毀却若クハ扶植伐採
スヘシ

第十一條 允許ヲ得テ道路ニ置キタル竹木土石類及ヒ通行スヘキ場所ニアル井溝其他凹所
等ハ蓋圍ヒ又ハ標識ヲ設ケ其危險ヲ防クヘシ(十七年甲第
六號改定)

第十二條 諸車及ヒ牛馬ヲ牽キ又ハ荷物ヲ負擔シテ一時路上ニ休憩スル者ハ道傍ニ避ケテ
通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十三條 諸車ヲ路上ニ置キ又ハ牛馬其他ノ物件ヲ道路ニ横タヘ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラ
ス但建物木石等ヲ運搬中不得止一時街路ニ停メ置クハ路傍ニ片寄せ第七條ノ手續ヲ爲
スヘシ

第十四條 路上ニ佇立シ又ハ小兒(七才未滿
ヲ云フ)ヲ放歩セシメ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十五條 路上ニ於テ軍談輕業其他ノ人寄せヲ爲シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十六條 路上ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽根、毬等翫弄シ其他都テ遊戯ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカス

第十七條 露店行商及ヒ縁日商等食物其他ノ商品ヲ路上ニ羅列シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラ

第十八條 路上ノ樹木ヲ折伐シ又ハ便所街燈等ヲ破毀消滅シ溝渠下水ヲ毀損壅塞スヘカラ

第十九條 道路橋梁及ヒ其他ノ場所ニ於テ榜示シタル制札指道標ノ類ヲ毀棄汚損スヘカラ

第二十條 通行禁止ノ榜止アル場所通行スヘカス

第二十一條 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシムヘカラス

第二十二條 酩酊シテ路ニ喧噪シ又ハ醉臥スヘカラス

第二十三條 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放テ若クハ路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又

ハ驚逸セシムヘカラス

第二十四條 人道車道馬道ノ區別アル場所ニ在テ諸車牛馬ヲ人道ニ牽キ入レ又ハ猥リニ車

馬道ヲ通行スヘカス但シ人道ニ於テ灌水車ヲ使用シ小兒車ヲ押シ及ヒ所有者諸車牛馬ヲ

出入スルハ此限リニアラス

第二十五條 鐵道ノ馬車軌線ニ瓦礫等ヲ置キ行進ノ妨害ヲ爲スヘカラス

(十七年甲第十六號ニテ二十六
ヨリ三十一條マテ六ヶ條改定)

第二十六條 街路ノ掃除ハ兩側居住人ニ於テ分擔シ其片側ナルモノ一方ノ居住人ニ於テ地
先八間通り負擔スヘシ但居住人ナキハ借地人借地人ナキハ地主ノ負擔トス

第二十七條 橋上馬車道及ヒ第二十六條ニ定メタル負擔者ナキ街路ノ掃除並ニ鳥獸ノ死屍

取片付ハ區町村ノ負擔トス

第二十八條 負擔ノ場所ハ塵芥雜草及ヒ降雪等ヲ掃除スヘシ

第二十九條 地方稅負擔ノ道路ニ沿ヒ區町村費ヲ賦課スヘキ土地ノ埋先下水及其線路ニ係

ル横切下水ハ總テ其區町村ニ於テ負擔シ其地ノ地先下水及ヒ私設道路沿ヒノ下水ハ地主ニ於テ負擔スヘシ

第三十條 前條ノ下水ハ各負擔者ニ於テ毎年兩度(四五月ノ間十一月十二月ノ間浚除)スヘシ但シ塵芥淤泥等

溜滯スルキハ横切下水ハ區町村其他ノ下水ハ負擔ノ如何ニ拘ラズ其地主ニ於テ臨時浚除

スヘシ

第三十一條 下水浚ヘ揚ケノ淤泥塵芥ヲ路上ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十二條 炎天及ヒ風日ニハ時々路上ニ水ヲ溜クヘシ但シ十二月一日ヨリ二月二十八日

迄ハ午前第九時前午後第三時后ハ水ヲ洒クヘカラス

第三十三條 溝渠等ノ汚水其他汚穢物ヲ洗滌シタル水ヲ路上ニ洒注スヘカラス

第三十四條 瓦礫塵芥禽獸ノ死屍及ヒ汚穢物ヲ街路又ハ溝渠下水ニ投棄スヘカラス但シ氷

雪ハ河海下水等ニ投棄シ止ムヲ得ス一時路傍ニ堆積スルモ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十五條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ幼兒ニ大小便ヲ爲サシム

ヘカラス

第三十六條 此規則ハ郡ノ公道及ヒ都テノ私設路ニモ亦適用スルモノトス

第三十七條 此ノ規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○人力車取締規則

第一條 人力車ノ營業ヲ爲サントスルモノハ警察署一管内毎ニ組合ヲ設ケ第一號第二號書

式ニ準シ組合頭取加印ノ上區ハ區長郡ハ戸長ノ與ヲ印受ケ所轄警察署ヘ願出鑑札ヲ受ケ

廢業ノ節ハ之ヲ返納スヘシ尤モ組合ハ便宜ニ依リ合併スルヲ得

但雇人ニ車ヲ挽カシメ營業スルモノハ雇人一人ニ付鑑札一枚ツヽ受クヘシ

第二條 人力車營業者トハ人力車ヲ貸シ又ハ自ラ所有者輓キ或ハ雇人ニ輓カシメ及ヒ借車

ヲ輓キ營業ヲ爲ス者ヲ云フ

第三條 人力車所有ノモノハ其住所姓名及ヒ車ノ番號ヲ記シタル木札ヲ長五寸車ノ蹴込右

方ニ釘付スヘシ

人力車取締規則

人力車取締規則

二百十六

第四條 賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警視廳ノ認可ヲ受ケ車ノ蹴込正面ニ表記スヘシ

第五條 人力車ヲ輓クモノハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラス要用ノ場合ニ於テ見ノイヲ求ムル
キハ之ヲ示スヘシ

第六條 轉居改姓名及ヒ鑑札ヲ遺失毀損シ若シハ雇人ヲ更換シタルキハ第三號第四號書
式ニ準シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ但轉居改姓名及ヒ雇人更換ヲ除ク外區
戸長ノ奥印ヲ要セス

第七條 鑑札ヲ賃借シ及ヒ檢印ヲ轉用スヘカラス

第八條 車内ニ遺留品アルキハ其主分明ナルハ之ヲ還付シ然ラサルハ速ニ警察署ヘ届出ツ
ヘシ

第九條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過スルキハ除行シ且懸聲ナスヘシ

第十條 「軍隊及ヒ」十八年甲第二號 車馬ニ行逢フキハ左ニ避ケ及ヒ坂路ハ上リ車之ヲ避
クヘシ尤郵便馬車ニ行逢フキハ殊ニ避讓ニ注意スヘシ明治十八年第三號警視廳布達途上
ニ於テ馬車ニ行逢フキハ互ニ左方

ニ避クヘキ定規ノ處軍隊并ニ砲車輜重車
ニ行逢フタルキニ限り右方ニ避クヘシ

第十一條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸聲ヲナスヘシ前車便宜之ヲ避ケ後車ヲ通過
セシムヘシ

第十二條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲ爲スヘカラス

第十三條 乗客ニ對シ約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第十四條 猥リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲナスヘカラス

第十五條 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ヘ輓キ入ルヘカラス

第十六條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上乗スヘカラス但十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人
ト看做シ保護人アル三歳未満ノ者ハ定員外トス

第十七條 失火場三丁以内ニ車ヲ入ルヘカラス

第十八條 車ヲ並ヘ輓キ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十九條 壹人ニテ貳輛以上ノ車ヲ連テ輓クヘカラス但空車貳輛ヲ連ヌルハ妨ケナシ

人力車取締規則

二百十七

人力車取締規則

二百十八

第二十條 往來ノ妨ケトナルヘキ場所ニ車ヲ駐止スヘカラス

第二十一條 街燈アル地ヲ除ク外夜中燈火ナクシテ車ヲ疾驅スヘカラス

第二十二條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ禁

止スルコアルヘシ

第二十三條 自用人力車ニ在テハ此規則第一條ヨリ第八條迄及ヒ第十二條第十三條ヲ除ク

ノ外ハ之ヲ遵守スヘシ

第一號書式

私儀貸人力車。所有人力車ヲ輓カ營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也
借リ人力車ヲ輓カ輓夫雇入

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)
何府(縣)(士族)(平民)

年 月 日

何 誰 印
年 齡

警視總監姓名宛

當區(村)内在籍寄留ノ者ニ相違無之候也

何區長(何戶長) 姓 名 印

組合頭取 何 誰 印

第二號書式

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

何 誰

年 齡

右ノ者雇入人力車ヲ輓カセ度候間鑑札御渡方奉願候也

(雇主住所姓名及ヒ奥印等都テ前ニ全シ)

第三號書式

人力車取締規則

二百十九

人力車取締規則

二百二十

私儀何郡(區)何町(村)何番地ヨリ何郡(區)何町(村)何番地へ移住候ニ付(御渡ノ鑑札遺失紛失又ハ毀損或ハ改姓名仕候ニ付)鑑札御書替御渡方奉願候也

(住所姓名及ヒ奥書等都テ前ニ全シ)

第四號書式

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

解雇

何 誰

同上

同上

雇人

何 誰

年 齡

右ノ通雇入雇換候間鑑札御書換奉願候也

(雇主住所姓名及ヒ奥書等都テ前ニ全シ)

○馬車取締規則

第一條 乗合馬車貸馬車荷馬車ノ營業ヲ爲ントスル者及ヒ乗合馬車ノ馭者馬丁タルヘキ者

ハ第一第二號書式ニ準シ區ハ區長郡ハ戸長ノ奥印ヲ受ケ警視廳へ願出鑑札ヲ受クヘシ但

廢業ノ節ハ鑑札ヲ所轄警察署へ返納スヘシ

第二條 馭者ハ滿二十歳以上タルヘシ但技術ノ功拙ヲ檢査シ許否スルモノトス

第三條 轉居改姓名及ヒ鑑札ヲ遺失若クハ毀損シタル者ハ第三號書式ニ準シ第一條ノ手續

ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ尤モ轉居姓名ヲ除クノ外區戸長ノ奥印ヲ要セス

第四條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラス要用ノ場合ニ於テ見ノコヲ求ムルキハ之ヲ

示スヘシ

第五條 鑑札ヲ貸借シ及ヒ檢印ヲ轉用スヘカラス

第六條 乗合馬車ハ其所有主ノ住所姓名及ヒ乗客ノ定員ヲ記シタル木札長七寸巾五寸ヲ車体後面

馬車取締規則

二百二十一

見易キ所ニ釘付スヘシ

第七條 乗合馬車ノ構造及ヒ乗客定員ハ左ノ各項ニ従フヘシ

一 四輪ニシテ運轉自在堅牢ナルモノ但屋上ニ客坐ヲ具フルヲ得ス

二 腰掛臺巾一尺一寸以上ヲ以テ一人ノ度トス

三 乗合馬車ハ馬一匹ニ付乗客六人ヲ以テ限リトス

四 乗客十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ保護人アル三歳未満ノ者ハ定員外トス

第八條 乗客馬車ノ車體並ニ馬匹ハ毎月一回日割ハ第四號表ニ依ル警視廳ニ於テ検査ノ上其證ヲ付

ス廢業ノ節ハ之ヲ所轄警察署ヘ返納スヘシ又主務官吏ヲ派シテ臨時検査セシムコトアルヘシ

但検査定日事故アリ不參ノモノハ其旨届出指圖ヲ受クヘシ尤モ當日大祭日ニ當ルキハ

其次日(日曜日ナレハ延引)ヲ以テス

第九條 検査上左ノ二項ニ觸ル者ハ其使用ヲ許サス

一 車體脆弱ニシテ危険ノ虞アルモノ

二 馬匹疾病毀傷其他衰弱ニシテ馳驅ニ堪ヘスト思量スルモノ

第十條 定期検査受ケサル馬車ハ使用スルヲ許サス但検査證ハ馭者常ニ携帯スヘシ

第十一條 乗合馬車ノ立場ハ其地ノ圖面ヲ以テ警視廳ヘ出願允許ヲ受クヘシ但シ立場ノ掃

除ハ該營業人ノ負擔トス

第十二條 賃錢ハ警視廳ノ認可ヲ受ケ車中見易キ所ニ之ヲ表記スヘシ

第十三條 車内ニ遺留品アルキハ其主分明ナルハ之ヲ還付シ然ラサレハ速ニ警察署ヘ届出

スヘシ

第十四條 傳染病或ハ瘋癲又ハ亂醉者ト看認ムル時ハ乗車セシムヘカラス若シ乗客中傳染

病者アルハ速ニ最寄警察署若クハ巡查屯所同派出所又ハ巡行ノ巡查ヘ届出スヘシ

第十五條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過スルハ徐行シ且懸聲ヲナスヘシ

第十六條 「軍隊及ヒ(十八年甲第四號ニテ四字削除)車馬ニ行逢フ時ハ左方ニ避ケ阪路ハ上リ車之ヲ避

馬車取締規則

二百二十四

明治十八年甲第五號警視廳布達
途上ニ於テ馬車ニ行逢フハ互

シヘシ尤郵便馬車ニ行逢フ時ハ殊ニ避讓ニ注意スヘシ
ニ左方ニ避クヘキ定規ノ處軍隊并ニ砲車輜
重車ニ行逢フタルハ限リ右方ニ避クヘシ

第十七條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ聲ヲ爲スヘシ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ヲ

通過セシムヘシ

第十八條 行ハニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲ爲スヘカラス

第十九條 約束外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第二十條 濫リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十一條 濫リニ狹隘ノ小路ヲ疾驅スヘカラス

第二十二條 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ入ルヘカラス

第二十三條 火場三丁以内ニ入ルヘカラス

第二十四條 馬車ヲ並ヘ馳セ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十五條 行人ノ妨トナル場所ヘ駐止スヘカラス

第二十六條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第二十七條 馬匹ヲ慘酷ニ鞭撻驅逐スヘカラス

第二十八條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ停

止又ハ禁止スルコアルヘシ

第二十九條 途中ニ於テ危險ノ虞アリト思料スル馬車ハ巡查ニ於テ一時其使用ヲ停止スル

コアルヘシ

第三十條 馬夫自ラ牽キ馭者ヲ用ヒサル者其他營業ニアラスモノハ此規則第一條ヨリ第

十四條迄及ヒ第十八條ヲ除ク外之ヲ遵守スヘシ

第一號書式

私儀左ニ記スル馬車ヲ以テ營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

馬車取締規則

二百二十五

馬車取締規則

二百二十六

年號 月 日

何 誰 印

警視總監姓名殿

一 乘合馬車(貸馬車荷馬車)

二 馬車

當區(村)内在籍ノ者ニ相違無之候也

何區長(何戶長)姓名印

第二號書式

私儀取者(馬丁)營業仕度候間鑑札御下渡方奉願候也

(住所氏名及ヒ與印等總テ第一號ニ全シ)

第三號書式

私儀何郡(區)何町(村)何番地ヨリ何郡(區)何町(村)何番地ニ移轉仕候間御渡ノ鑑札遺失

(紛失)又ハ毀損仕候ニ付(鑑札(御渡方)奉願候也

(住所氏名及與印等總テ第一號ニ全シ)

第四號 車馬検査日割

第二月曜日 麴町區 日本橋區

同 火曜日 神田區 赤坂區

同 水曜日 牛込區 淺草區

同 木曜日 芝 區 小石川區

同 金曜日 四谷區 下谷區 本所區 荏原郡 東多摩郡

同 土曜日 京橋區 麻布區 本所區 深川區

一 検査ノ日ハ午前第八時出頭之事

○傳染病者届規則

第一條 醫師傳染病ヲ診斷スルモノハ傳染病豫防規則第二條所定ノ時間内ニ所轄警察署ハ

届出ヘシ

傳染病者届規則

二百二十七

第二條 郷村ニアリテハ第一條ノ手續ヲ以テ醫師ヨリ戸長役場若シクハ衛生委任又ハ警察署へ便宜(十五年甲第六號)届出スヘシ

但戸長及衛生委員ニ於テハ速カニ其届書ヲ所轄警察署へ送付スヘシ

第三條 他醫ノ施治ニ係ル患者ヲ診斷シ萬一傳染病ナルキハ前醫届出ノ有無ヲ問ヒ若シ無

届ナレハ速カニ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 醫師二名以上ニシテ其所見ヲ異ニスルキハ各自意見書ヲ以テ届出スヘシ

第五條 若シ傳染病者死亡シタルキハ二十四時間ニ全治ノモノハ三日間内醫師ノ届書ヲ得

テ其患者ノ家ヨリ第一條第二條ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第六條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○畜犬取締規則

第一條 畜犬ハ其主ノ住所姓名ヲ詳記シタル頸環又ハ牌子ヲ附ケ置クヘシ

第二條 畜犬傳染病ニ罹リタル兆候アルカ又ハ狂猛ニシテ人畜ヲ傷害スルノ虞アル者ハ畜

主ニ於テ嚴ニ之ヲ繋留シ逃走ノ患ナカラシム可シ但傳染病ノ兆候アルキハ速ニ所轄警察署ニ届出スヘシ

第三條 警視廳ハ其傳染病タルヲ確認スルキハ畜主ト警察官吏ト立會ノ上之ヲ撲殺セシム

第四條 畜犬ヲ失ヒ之ヲ求メント欲スル者ハ其大小毛色種類等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出

第五條 警視廳ハ無標ノ犬ヲ徘徊スルヲ捕ハ廳内ノ獸欄ニ入レ置キ一週間畜養セシム

第六條 前條ノ迷犬其主之ヲ請フ者アレハ一日ニ付金二十五錢ノ養料ヲ拂ハシメテ後之ヲ還付ス若シ一週間内ニ請フ者ナキハ警視廳ニ於テ之ヲ賣却シ以テ養料及獸欄修膳等ノ費ニ充ツ

○烟火取締規則

第一條 烟火製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ添付シ所轄警察署ニ差出シ

畜犬取締規則

煙火取締規則

免許ヲ受クヘシ

但第三項ノ距離ハ十間以上タルヘシ

一 製造場及火藥類置場ノ位置ヲ示シタル縮圖

二 製造場又ハ火藥類ノ置場ト人家トノ距離

三 煙火ノ種類及其置場

第三條 烟火販賣ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ其種類及置場ヲ記載シ所轄警察署ヲ經テ

テ警視廳ニ差出シ免許ヲ受クヘシ但小兒ノ玩弄ニ止マル線香花火ノ類ハ此限ニアラス

第三條 白痴瘋癲者又ハ管理者ナキ未丁年者ニハ免許ヲ與ヘス

第四條 轉居改氏名若クハ廢棄シタルトキハ三日以内ニ製造者ニ在テハ所轄警察署ヲ經テ

警視廳ニ販賣者ニ在テハ所轄警察署ニ届出ヘシ

第五條 刑

第六條 烟火製造場及販賣所ニハ左ノ看板ヲ掲クヘシ

堅 三 尺

□ 免 煙火 (製造場 販賣所) 住所 氏 名
--

横 七 寸

第七條 烟火ハ倉庫又ハ製造場ノ外貯藏スヘカラス

第八條 烟火ノ貯藏ハ製造者ニ在テハ其使用セントスル火藥類ト既ニ製造シタルモノト併

セテ成規火藥取締規則第十三條ノ量目ヲ超過スルヲ得ス又販賣者ニ在テハ其烟火ニ配合シタル火藥

量三百目ヲ超過スルヲ得ス

第九條 烟火製造場並烟火用ノ火藥類若クハ烟火ヲ貯藏スル倉庫内ニ於テ喫煙ヲ爲シ或ハ

發火質ノ物品ヲ取扱或ハ鐵製ノ器具ヲ使用シ又ハ濫リニ他人ヲ出入セシムヘカス

第十條 烟火ハ日出前日没後製造又ハ販賣スルコトヲ得ス

第十一條 烟火製造人ハ簿冊ヲ製シ左ノ事項ヲ記載シ置キ警察官ノ點檢ニ供スヘシ

煙火取締規則

一 火藥ヲ買入レタルトキハ其年月日斤量及其免許商人ノ住所氏名

二 製造シタル煙火ノ種類及其員數

三 賣渡シタル煙火ノ種類員數及買受人ノ住所氏名

四 毎月末火藥類及煙火ノ現在高

第十二條 煙火販賣人ハ簿冊ヲ製シ左ノ事項ヲ記載シ置キ警察官ノ點檢ニ供スヘシ

一 煙火ヲ買入レタルトキハ其年月日斤量及免許製造人ノ住所氏名

二 煙火賣渡ノ年月日及其種類員數買受人ノ住所氏名

三 毎月末煙火現在高

第十三條 煙火ヲ興行セントスル者ハ其願書ニ日時地名及煙火ノ種類員數ヲ記シ興行地ノ

警察署ヲ經テ警視廳ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十四條 前條ニ依リ許可シタルモノト雖モ烈風等ニテ危險ト認ムルトキハ一時停止ヲ命

スルコトアルヘシ

第十五條 本則第一條第二條第七條第八條第十三條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十五條ニ

照シ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 本則第九條第十條第十一條第十二條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ

處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 本則第四條第六條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○紙屑買紙屑拾下足直ニ係ル規則

第一條 紙屑買ヒ紙屑拾ヒ下足直シ渡世ノ者ハ左ノ標札ヲ製シ所轄警察署ノ檢印ヲ受ケ屑

籠又ハ道具箱ニ表出スヘシ

紙屑買	何區(郡)何町(村)何番地
紙屑拾	氏名
下足直	年月生
何警察署印	
烙印	

堅八寸

横三寸

紙屑買紙屑拾下足直ニ係ル規則

二百三十三

第二條 屑買ヒ屑拾ヒノ者ハ目籠ノ外風呂敷又ハ布囊ノ類ヲ携帯スヘカラス

第三條 面部ヲ隱蔽シ路上ヲ徘徊スヘカラス

第四條 人ノ求メナクシテ邸宅ニ立入ルヘラス

第五條 轉居改氏名ヲ爲シ標札面ニ變更ヲ生シタルトキハ之ヲ書換其旨三日内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ但他ノ警察署管内ニ轉居シタルトキハ第一條ノ手續ニヨリ更ニ檢印ヲ受ケ從前ノ分ハ第六條ノ手續ニヨリ消印ヲ請フヘシ

第六條 廢業シタルトキハ其檢印ヲ受ケタル警察署ニ標札ヲ持參シ檢印ノ消除ヲ請フヘシ

第七條 標札ヲ遺失毀損シタルトキハ其旨届出更ニ檢印ヲ受クヘシ

第八條 前各條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

○街路取締規則標準

第一章 通則

第二條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水并橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ道路ニ適用スヘキモノトス

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收ス

第三章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒檐、旗柱、招牌、物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スコトヲ得ヘキモノトス

- 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
- 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
- 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
- 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ管轄廳ニ願出允許ヲ受クヘキモノトス

- 一 街路ニ床店葭簀張ヲ設クル事

街路取締規則標準

街路取締規則標準

二百三十六

- 二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈ヲ建ル事
- 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事
- 四 街路ニ華表、牌表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
- 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事
- 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹、木、土石類ヲ置キ或ハ板圍、繩張、足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
- 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スル長大ノ物件ヲ運搬スル事
- 八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歳市草市等ノ節)及店飾ヲ設クル事
- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
- 十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
- 十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事
- 十二 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事

- 十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事
- 第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設ケヘシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス但樋溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ塙塀ヲ設ケヘキモノトス
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強靱ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ頓仆セサル様堅牢ノ装置ヲ爲スヘシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞、頓仆ノ虞アルモノハ速ニ修理、撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十二條 街路ニ竹、木、土、石類ヲ置クトキハ標識ヲ設ケヘシ
- 第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄せ標燈

街路取締規則標準

二百三十七

第十四條 街路ノ井戸ヲシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ

第十五條 道路、橋梁、溝渠、下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十六條 制札、指道標、便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書、貼紙ヲ爲スヘカラス

第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ商品、薪炭、荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十九條 街路ニ於テ荷造、木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ濫ニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥スヘカラス

第二十二條 街路ニ於テ水管轄廳ヨリ指定シタル區域ノ外露店ヲ出スヘカラス

第二十三條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラ

第三章 街路ノ清潔

第二十四條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十五條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除スヘシ但午前八時後日没迄ノ降雪ハ降歇後直

ニ掃除スヘシ

第二十六條 掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十七條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖モ午前九時前午

後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十八條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其浚ヒ揚ケタル淤泥、塵芥等ヲ街路ニ布キ又

ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ敷物、疊、穀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十二條 街路ヲ運搬スル物品ハ、墜落、漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十三條 街路ニ臨ミタル屋根、物干又ハ窓手摺等ニ襤褸其他見苦敷若クハ危険ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十四條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十五條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋

ニ出入スル者ハ此限ニアラス

第三十六條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハズ跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其設ナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ

第三十九條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物品ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十一條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス

第四十二條 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊并砲車、輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

第四十五條 郵便用、消防用ニ供スル車馬及ヒ灌漑水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

街路取締規則標準

二百四十二

- 第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ
- 第四十七條 車馬、街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
- 第四十八條 牛馬、諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横へ若シハ妨害物ヲ軌道ニ置クヘカラス
- 第四十九條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬、諸車ヲ牽入ルヘカラス
- 第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬、諸車ヲ駐止スヘカラス
- 第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス
- 第五十三條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス
- 第五十四條 街路ニ於テ紙鷲ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽子、手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス
- 第五十五條 街路ニ於テ軍談、輕業其他ノ寄セヲ爲スヘカラス

第五十六條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫ニ車馬道ヲ歩行スヘカラス但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及空車ヲ其地内ニ出入シ若シハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當ノ構造ヲ爲シテ實車ヲ出入スル者ハ此限ニアラス

○乘合馬車取締規則標準

第一章 通則

- 第一條 乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ
- 第二條 營業者ニ關スル願届ハ總テ頭取ノ加印ヲ要ス
- 第三條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ
- 第四條 營業者自カラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第五條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効ナルヘシ

乘合馬車取締規則標準

二百四十三

第六條 車体及馬匹ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車体ヲ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ラス検査ヲ受クヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居、改氏名其他免許證、車馬検査證、鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許證、車馬検査證鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車馬検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時

二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 馭者馬丁ヲ解僱シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第九條 免許證、検査證、鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ缺クヘカラス

第十一條 乗客ノ員數ハ車體、馬力ニ應シ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 車馬検査證ハ検査毎ニ之ニ檢印ヲ受ケ馬匹検査證ハ其頸輪ニ結着シ車體検査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第十三條 検査證アル車馬ト雖モ第十五條第十六條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀ヲ示スルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘキモノトス

第十四條 營業者ハ検査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス

第二章 車體馬匹及器具

第十五條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス

二 車体ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス

三 客座ハ清潔、適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス但一人座席ハ巾一尺二寸ヲ下ルヘカラ

ス

四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス

五 車体前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘキモノトス

六 運轉器、心棒、發條、力革、手綱其他ノ器具ハ堅牢、強靱ノモノヲ用フヘキモノトス

第十六條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ル

第十七條 馬匹ニハ検査證ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十八條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ

熟達スル者ニ限ルヘシ

第十九條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強竊盜、強姦及過失

ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者

亦同シ

第二十條 馭者馬丁ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘキモノトス

一 馭者 帽子、筒袖、ツボン、靴

二 馬丁 帽子又ハ笠、法被、股引但雨雪泥濘ノトキハ半股引及ゴム引又ハ桐油製ノ雨具

ヲ用フルモ妨ナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 證票及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ノコトヲ求メタ

ルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 頰冠リ鉢巻其他不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ

馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十六條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十七條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サスシテ物品ヲ載ス

乗合馬車取締規則標準

ヘカラス

第二十八條 行車中ハ飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第三十條 他人ヲシテ馬ヲ馱セシムヘカラス

第三十一條 行人ニ對シ言語、動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス

第三十三條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ク坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後

ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及濯水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十四條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ

爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十八條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十九條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十條 定員三分一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十一條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其

主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡査交番所派出所ニ届出ヘシ

第五章 乗載制限

乗合馬車取締規則標準

第四十二條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病、疥癬、癩病、其他乘客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者
- 二 瘋癲者、暴亂行者、醉者及乞食體ノ者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
- 四 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十四條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケ車内及駐車場ノ見易キ所ニ掲示スヘシ

第四十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十六條 駐車場ニハ(乗合馬車駐車場)ト記シタル標識ヲ設クヘシ

第四十七條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四十八條 駐車場ノ地盤ハ石、煉化石、敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十九條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 營業組合

第五十條 馬車營業者ハ管轄廳ノ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十一條 組合ニ入ラサル者ハ馬車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 各組合ハ組合保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適宜公債證書、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第五十三條 管轄廳ニ納メタル組合保證金ハ組合中ノ營業者及馭者馬丁營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第五十四條 組合保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納セサルトキハ組合營業ノ効ヲ夫フモノトス

第五十五條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムル

モノトス

第五十七條 組合ニハ頭取一人ヲ置クヘシ頭取ハ組合營業中ヨリ之ヲ公選シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十八條 組合頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 組合保證金ニ關スル事

二 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事

三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事

四 營業者及馭者馬丁名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事

五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ支拂フ事

六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事

七 頭取ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第六十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ頭取タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第六十一條 管轄廳ニ於テ組合頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改選セシムル

コトアルヘシ

○營業人力車取締規則標準

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ營業スルヲ云フ

營業人力車取締規則標準

營業人力車取締規則標準

二百五十四

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ届出免許證ヲ受クヘシ

第三條 營業者ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ要ス

第四條 營業者ハ輓子ノ族籍、住所、氏名、年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第五條 營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ

第六條 輓子ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ檢査ヲ受ク可シ其檢査ヲ受ケサルモノハ無効タル

第七條 車體ハ毎年二回管轄廳ノ檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造、改造、又ハ買受讓受テ

爲シタルトキハ定期ニ拘ハラズ届出檢査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許證車體檢査證鑑札面ニ異同ヲ生シタル時
- 二 免許證車體檢査證鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車體檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ廢車シタル時
- 二 人力車ヲ賣渡又ハ讓渡シタル時
- 三 輓子ヲ解備シ又ハ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第十條 免許證車體檢査書鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車體檢査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第十二條 檢査證アル車ト雖モ第十八條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十三條 營業者ハ出頭ノ際身元保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適宜公債證書、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第十四條 身元保證金ハ廢業又ハ營業禁止若クハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

營業人力車取締規則標準

二百五十五

第十五條 管轄廳ニ納メタル身元保證金ハ營業者若クハ其輓子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第十六條 身元保證金ニ缺額ヲ生スルキハ十日以内ニ完納スヘシ其缺額ヲ納メサルトキハ

營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第十七條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス

第二章 車体ノ構造及輓子ノ資格

第十八條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス

二 車体ハ無地漆塗、中張ハ革、天鵝絨、羅紗等ヲ用フヘキモノトス

三 車体ニ同キ塗色ノ泥除ヲ備フヘキモノトス

四 車体ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組名番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス

五 ヲム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス

六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス

七 組名及車體ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭、摺附木ヲ用意スヘキモノトス

第十九條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ

一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者

二 其土地ノ路程ヲ略知スル者

第二十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜、強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子スルヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第二十一條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 着服ハ法被、股引但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ

二 冠リ物ハ帽子又ハ笠

三 雨具ハヨム引又ハ桐油製

第二十二條 法被冠リ物、雨具ニハ組合及鑑札ノ號番ヲ記スヘシ

第三章 轆子就業制限

第二十三條 轆子ハ鑑札及營業人力車取締規則并賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ソコヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 頰冠鉢卷其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十六條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫ニ駐車スヘカラス

第二十七條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス但乘客用辦ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ

所ニ駐車スルハ妨ケナシ

第二十八條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ輓入ヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ヘカラス

第三十條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十一條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘラス

第三十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
- 二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
- 三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用、消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ且街角ヲ過クルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十四條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角、橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

營業人力車取締規則標準

營業人力車取締規則標準

二百六十

第三十七條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アリタルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十條 瀝車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第四十一條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ

計算スヘシ

第五章 乘載制限

第四十二條 一人乗ニ二人、二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乘載スヘカラス

- 一 六種傳染病、疥癬、癩病患者及乞食体ノ者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
- 三 車体外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

- 一 公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)
- 二 私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)

第四十五條 公設駐車場ハ管轄廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ設クル者ハ管轄廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十六條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ駐車場ニ置ヘカラス

第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取り出車ニ妨ケナキヲ要ス

營業人力車取締規則標準

二百六十一

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ闔取ヲ以テ出車スヘシ但客ノ特

ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクモテ出車ヲ拒ムヘカラス但暴行者
及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十一條 人力車營業者ハ管轄廳ニ於テ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十二條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ管轄廳ノ認
可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
 - 二 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事
 - 三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
 - 四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
 - 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
 - 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
 - 七 取締人ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若シハ土地ヲ所有スル者

營業人力車取締規則標準

二 組合營業者ニシテ人力車十輛以上ヲ所有スル者

三 營業上ニ關スル規則諸類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十九條 管轄廳ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ

○宿屋取締規則標準

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取坪數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル者ハ允許ヲ與ヘス

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲者

三 強竊盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四 風俗ヲ紊ルニキ所爲アリト認メタル者

第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨管轄廳ニ届出ヘシ

第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラシムヘカラズ

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查交

番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十一條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス

第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食

物ヲ供スヘカラス

第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及各室ニ掲示スヘシ

第三章 旅人宿

第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ

第十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムヘシ

第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ口柵ヲ設クヘシ

第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クヘシ但階子ノ幅ハ

四尺以上タルヘシ

第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、敲キ陶器

等ヲ以テ構造スヘシ

但構結上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス

但同行者ハ此限ニアラス

第二十一條 客室ノ番號并定員ハ客室ノ出入口ニ掲示スヘシ

第二十二條 正當ノ由理ナクシテ旅人ヲ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第二十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ原簿ニ記入シ且

甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

宿泊人名簿書式用紙寸法適宜(表略)

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賄料、座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢并下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通テ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ一通ニ其捺印ヲ受ケ所持スヘシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第二十九條 下宿人他ニ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第三十條 木賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スヘキモノトス

第三十一條 宿泊人滯在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第三十二條 宿泊人届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フヘシ

第六類 雜

○官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

官吏服務紀律

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一官廳ノ工事ヲ受負フ者

一官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受シル者

一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一官廳ノ用品ヲ調達スル者

一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費ヲテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコト

ヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉ズル者ニ適用ス

○行政警察規則

第一章 警察職務之事

第二條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條 各府(東京府ヲ除ク)縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム

第三條 其職務ヲ特別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルキ其犯人ヲ探索逮捕ズルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フキハ檢事章程并司法警察規則ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可ラス且一己ノ功ヲ貪リ

警察一般ノ目的ヲ愆ルヘカラス

第二章 警部勤務ノ事

第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條 凡布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

行政警察規則

第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況并ニ巡查ノ勤怠否正ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ク詳細スルヲ要スヘシ

第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條 凡警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣之警察官ニ報知若シハ照會スルヲ得ヘシ

第六條 達シ又ハ訊問等ノコアルニ付テハ勅奏官及ヒ華族并有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スヲ得ヘシ

第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ處斷シテ后長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡查勤方ノ事

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持區内ノ居民并道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フキハ何時ニテモ乞ニ應シ或

ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第カテ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ

取計フヘシ

第三條 老幼廢疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持区内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戸長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條 持区内ノ戸口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄テ注意シ若シ無産体之者集

合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルキハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持区内ヘ他ヨリ移リ來ル者アテハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セ

サル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若シ已ムヲ得サルコトアルキハ自ラ行テ尋

問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人信ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ

行政警察規則

二百七十五

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部へ報知スヘシ

第九條 非番タリテ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平生其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルキハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ游塞不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋渠道路其他公有ノ建造物破損スルキハ警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラルトキハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 穉兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ニ預ケ之ヲ警部へ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持區内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ

其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ

第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ

警部ノ指圖ヲ受クヘシ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十八條 路上狂癪人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルキハ其模様ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルキハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ贗造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ檢査スヘシ

第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第二十四條 怪キ者ヲ見認ルキハ取糾シテ幟子ニ依リ持區内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アルヘカラス

第二十五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人既ニ集マルニ至レハ魁ヲテ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戶長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章 巡查心得ノ事

第一條 專ラ行儀作法ヲ正シシ威權ケ間敷儀之ナクノ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ中立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後

日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ヲ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レ々々敷儀決シテ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持區内ニテ金譚等頼入レ或バ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露バシ又ハ婦女ヘ對シ戲ケ間敷儀等決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ節ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ掛官ニ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物之外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ

取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥リニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルコトアリト雖モ必ス耻辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ争鬪ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシテ金銀物品ヲ受クルコト有ルヘカラ

サル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラサル事

第十九條 毎朝衣服冠物其他器械ヲ検査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

○警察賞與規則

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スヘキモノトス

第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 金三圓以上拾五圓以下

乙種 金五圓以下

特別賞 金拾五圓以上三十圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限り之ヲ給スルコトヲ得

第三條 犯罪事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 左ノ犯罪ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一 國事ニ關スル重罪犯

二 兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三 貨幣偽造變造ニ關スル重罪犯

警察賞與規則

四 人命ニ關スル重罪犯

五 放火ニ關スル重罪犯

六 強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一 貨幣偽造變造ニ關スル輕罪犯

二 竊盜ニ關スル罪犯

第三項 前項ノ罪犯ヲ明分ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項 第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及第一

項ニ揚クル罪犯ニシテ其未遂ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上拾圓以下甲種ハ

五圓以上貳拾圓以下ノ金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項 前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スルコト

ヲ得

第五項 前數項ニ該當スルモノト雖トモ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ尠ナキモノ若

シハ全圓ヲ賞與シ難キ事情アルモノハ賞詞ヲ與フルコトヲ得

第四條 水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナルモノハ

甲種ノ賞ヲ與フルコトヲ得

第五條 罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若シハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖

トモ其疑キモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條 賞與ハ何等ノ場合ヲ問ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス但第三條第一項ノ場合ハ一犯罪ニ付

テソ賞トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ

一事件若シハ數事件一名若シハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキ之ヲ賞與スルニハ

一事件若シハ一罪犯ニ對スル金額又ハ數事件若シハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ

人員ニ配當給與スヘシ

第八條 功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナルモノニ給ス若

シ親屬ナキトキハ戸長ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ

其所在不明分ナルトキ亦同シ但親屬ナキ者ニシテ二十六ヶ月ヲ經過シタルトキハ賞與ヲ

施行セス

第九條 公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞ヲ與ヘス

第十條 自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞ヲ與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ

一般ニ洪益ヲ及ホスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル

者亦同シ

第十一條 罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコト得ス

第十二條 第八第十第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタ

ル者ヲ云フ

第十三條 巡查ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及
特別賞ヲ與フルコトヲ得

第一項 第三條ニ掲クル罪犯ヲ捜査シ又ハ捕獲シ其功勞著シキ者

第二項 前項ニ該當セスト雖モ其功勞ノ前項ニ比シ相下ラサル者

第三項 第四條ニ掲クル事項及流行病ニ付其功勞著シキ者

第四項 自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救援シタル者

第十四條 巡查罪犯ヲ捕獲シテ功勞アリト雖モ未タ拘留セサル前ニ逃走セシメタルモノハ
賞與スルコトヲ得ス

護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕護シタルトキ亦同シ

第十五條 巡查私事旅行中其管内ニ於テ賞與スヘキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲
シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ

第十六條 巡查ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全

數ニ分賦シ其巡查ニ屬スル金額ヲ賞與スヘシ

第十七條 本則第七條乃至第十一條ハ巡查ノ賞與ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十八條 巡查ノ賞與ハ其所屬廳ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳(東京府ハ

警視廳)ニ於テ施行スヘシ

第一項 訴ヘテ受タル地ノ管轄廳

第二項 罪犯ヲ最初ニ受取タル地ノ管轄廳

第三項 犯罪事件ニ屬セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳

第十九條 賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ盡シ其金額

ヲ定メ之ヲ差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其廳ニ於テ賞與スヘシ

第二十條 警部其他警察事務ニ従事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡查ノ例ニ準シ賞與スル

コトヲ得

第二十一條 賞與ヲ行フタルトキハ一箇年取纏翌年一月三十一日マデニ當省ヘ報告スヘシ

但特別賞與ニ屬スルモノハ其都度報告スヘシ

第二十二條 賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

○司法警察訓則

第一編 總則

第一章 司法警察ノ要領

第一條 司法警察ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ捜査シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ニ供スルヲ目的トス

第二條 司法警察ハ晝夜ノ差別ナク之ヲ行フ可キモノトス

第三條 司法警察ノ處分ハ迅速ナラサル可カラス事機ニ應シテ證據ヲ集取スルヲ要ス

第四條 司法警察ノ處分ハ緻密ナラサル可カラス細大ノ事物ニ注目シテ證據ヲ完備スルヲ

要ス

第五條 司法警察ノ處分ハ秘密ナラサル可カラス嚴ニ其漏泄ヲ防キ犯人逃走罪證湮滅ノ弊

ナカラシメ且成ル可ク被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第六條 司法警察ノ處分ハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス小事ハ成ル可ク告訴人ノ證明ニ任ス可シ

又濫ニ一家ノ隱微ヲ訐クコトナキヲ要ス

第七條 司法警察ノ權ハ身體拘束家宅進入物件差押ニ及ホスコトヲ得ス

第二章 司法警察官ノ構成

第八條 司法警察權ハ司法大臣ノ統轄ニ屬ス

第九條 控訴裁判所檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ者ヲ監督ス又其管轄地内ニ於テ自ラ司法警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

又司法警察ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢事ニ告達シ又ハ時宜ニ因リ直ニ司法警察官ニ指揮スルコトアル可シ

第十條 輕罪裁判所檢事ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行ヒ又其補佐トシテ司法警察ノ職務ヲ行フ者ヲ指揮ス

第十一條 左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ各其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

一 警視廳部長警部

二 憲兵將校下士

三 區長郡長

四 治安判事

五 第一項第二項ノ官吏在ラサル地ノ戶長

第一項第二項ノ官吏ハ專務ニシテ第三項以下ノ官吏ハ專務ニ非サル者トス
專務ニ非サル官吏ハ成ル可ク其職務ヲ專務ノ官吏ニ讓ル可シ

參照

○明治十四年太政官第拾壹號達憲兵條例

第四條 憲兵ハ其職務ニ關シ警視總監府知事縣令東京府知事ヲ除ク并ニ各裁判所檢事ヨリ指示ヲ受クル時ハ直ニ其事ニ從フ可シ

○明治十五年第貳拾三號布告

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

第十二條 警視總監府知事東京府知事ヲ除ク縣令ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フニ付

キ檢事ト同一ノ權ヲ有ス但國事犯其他重大ナル事件アル場合ニ限り其職務ヲ行フテ例ト

ス

第十三條 豫審判事ハ直ニ告訴告發ヲ受ケタル事件ニ付キ其裁判所管轄地内ニ於テ司法警

察ノ職務ヲ行フ但急速ヲ要セサル事件ハ成ル可ク檢事ニ讓ル可シ

第十四條 空知樺戸釧路集治監典獄ハ各監獄所在地ニ於テ其管理スル囚人及ヒ假出獄免幽

閉ノ者ノ犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

参照

○明治十五年第拾六號布告

樺戸集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

○明治十五年第拾壹號布告

空知集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

○明治十八年第四拾貳號布告

釧路集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十五條 小笠原嶋出張東京府官吏ハ其嶋内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

參照

○明治十四年第五拾六號布告

小笠原嶋裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ違警罪裁判所始審裁判所即チ輕罪裁判所

ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該嶋ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十六條 伊豆七嶋地役人ハ其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

參照

○明治十四年第五拾七號布告

伊豆七嶋裁判事務當分該嶋吏ヘ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行

候

候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十七條 清國朝鮮國駐在檢事ハ各其駐在地ニ於テ日本國人ノ犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

第十八條 商船ノ船長ハ商船内ノ犯罪ニ付キ明治十四年第六十五號布告ニ從ヒ司法警察ノ

職務ヲ行フ

參照

○明治十四年第六十五號布告商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作

ルヘシ但調書ヲ作ルヲ能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ申立ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着
港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ
領事ニ之ヲ引渡スヘシ

第十九條 司法警察官ノ管轄ハ犯罪ノ性質場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルヲナシ

第二十條 司法警察官他ノ管轄地内ニ於テ捜査ヲ爲ス可キ時ハ之ヲ其地ノ司法警察官ニ屬
託ス可シ

第三章 司法警察官ノ職務

第二十一條 司法警察官ノ職務左ノ如シ

- 一 犯罪ノ捜査
- 二 現行犯ノ假豫審

第二十二條 司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アル時ハ成ル可ク其處分ヲ
爲サレ可カラス

第二十三條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサル時ハ司法警察官タルノ
證據ヲ携帯ス可シ若シ其處分ヲ受クル者ノ請求アル時ハ之ヲ示スヘシ

第二十四條 司法警察官ハ專ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉
スルノ多數ナルノミチ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第二十五條 奸惡ノ徒ハ巧ニ法網ヲ脱スルヲ圖ルモノニシテ無智ノ細民知ラスシテ法律
ニ觸ルノ比ニ非ス司法警察官タル者宜ク其犯情ヲ看破スルヲ注意ス可シ

第二十六條 司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎
ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直ニ捜査ニ着手セサル可カラス

第二十七條 檢事ト司法警察官トハ職權ニ差等アリト雖モ其關係密着シテ事務ヲ料理ス可
キモノナルニ因リ互ニ協和ヲ旨トス可シ

第二十八條 司法警察官ハ管轄内外ニ拘ヲス執務ノ便益ヲ圖ル爲メ平常互ニ氣脈ヲ通ス可

第二十九條 司法警察官被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナル時ハ嫌疑ヲ避クル爲メ成
ル可ク其處分ヲ他ノ官吏ニ讓ル可シ

第三十條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスル時ハ警察署憲兵屯營ニ照會シテ巡查憲
兵卒ヲ使用スルヲ得但事機緊急ナル時ハ直ニ之ヲ使用スルヲ得

若シ事機緊急重要ニ渉ル時ハ鎮臺又ハ營所分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得其要求書
ニハ成ル可ク犯罪ノ性質被告人ノ員數所在地及ヒ其攜帶スル兇器ノ種類等ヲ記載ス可シ
參照

○明治十四年太政官第八十二號達

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ
當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

但事機緊急ナル時ハ直ニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事機緊急重要ニ渉ル時ハ直ニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ
要求スルヲ得

第三十一條 兵力ヲ要求シタル司法警察官ハ直接ニ兵卒ヲ指揮スルヲ得スト雖モ處分ノ
方法ハ付キ指揮官ニ協議スルヲ得

第三十二條 謀故殺放火強盜其他重罪輕罪ヲ分タス重要ナル事件アリタル時ハ司法警察官
ハ速ニ其旨ヲ檢事ニ報告ス可シ

第三十三條 刑法第二編第二章第二章及ヒ第三章第一節ノ犯罪アリタル時ハ司法警察官ハ
速ニ檢事ニ報告シ檢事ハ之ヲ司法大臣ニ具狀ス可シ

第三十四條 勅委任官華族帶勳有位者禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル時ハ司法警察
官ハ速ニ其旨ヲ檢事ニ報告ス可シ

第三十五條 外國人重罪輕罪ヲ犯シ又ハ外國人ニ對シ重罪輕罪ヲ犯シタル者アル時ハ檢事
司法警察訓則

司法警察官第三十三條ノ手續ヲ爲ス可シ
第三十六條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百貳拾八號達ニ從ヒ處分
ス可シ

參照

○明治七年太政官第百貳拾八號達司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員之事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家族
並ニ公使館屬員 書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記
官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ 及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナ

シテ思量スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸
ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外
務省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待テ後引出スヘシ 尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係

スルコトニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省
ニ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置クヘシ 警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿
記シ置クヘシ 若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト
稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道ニ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施
スヘシ 若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ラル時ハ公使館
同道ニ右ノ如ク處置スヘシ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス 若
シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留メタル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカ
ラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止テ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合せ而シテ其處分ヲナスヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯シ并犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告ヲ確證アリテ片時モ猶豫ナレカダキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アルヘカラス或ハ屬員ハ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申スヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同

な

館ヘ照會ヲ乞ヘ館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取りテ后之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムルハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第三十七條 外國人ノ身體家宅物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用ス可カラス但朝鮮國人及ヒ條約未濟國人ニ付テハ此限ニ在ラス

第二編 搜查權

第一章 搜查權ノ起因

第三十八條 搜查權ハ犯罪ニ先チ又ハ犯罪ニ後レテ生スルモノニ非ス犯罪ト同時ニ生スルモノナルニ因リ其起因ヲ知ルニハ犯罪ノ成立不成立ヲ鑑別スルヲ必要トス

第三十九條 犯罪ノ成立不成立ハ容易ニ鑑別ス可キモノト否ラサルモノトアリ故ニ犯罪アリト思料ス可キ事件ニ付テハ勉メテ其取調ヲ爲ス可シ犯罪ノ成立ヲ確認ス可カラサルノ故ヲ以テ初メヨリ之ヲ忽カセニスルヲ得ス

第一節 犯罪成立

司法警察訓則

第四十條 犯罪成立ニ關スル一般ノ條件左ノ如シ

一自由 他ノ強制ヲ受ケス事ノ行否自己ノ意ニ隨フヲ謂フ

二辨別 普通ノ知覺精神ヲ有シ事ノ是非ヲ識別スルヲ謂フ

三故意 法律規則ノ禁令アルコトヲ知ルト知ラサルトヲ分タス罪ト爲ル可キ事實ヲ知リ

テ之ヲ行ヒ若シハ行ハサルノ意アルヲ謂フ

第四十一條 前條ニ記載シタル條件ハ犯罪成立ニ必要ナリト雖モ諸罰則違警罪及ヒ過失罪

ニ付テハ法律ノ特例又ハ犯罪ノ性質ニ因リ條件ノ具備ヲ要セサルモノアリ

第四十二條 犯罪成立ニ關スル一般ノ條件ノ外各罪固有ノ原素ヲ具備スルヲ要ス例ヘハ詐

欺取財ノ罪ニ付テハ欺罔取受及ヒ他人ノ財物ノ三原素ヲ要スル如キ是ナリ

第四十三條 犯罪ノ原素具備シタル時ヲ以テ犯罪成立ノ期ト爲スト雖モ其原素ハ必シモ同

時ニ具備スルヲ要セス

第二節 未遂犯罪

第四十四條 法律ニ於テハ總テ已遂犯罪ニ付キ刑名ヲ定メタルモノニシテ其犯罪ノ原素ヲ

ル可キ事實ニ着手スルモ意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ行ヒ遂ケサル時ハ未遂犯罪トス

第四十五條 未遂犯罪ハ法律上罰スルト罰セサルトノ區別アリ

一 重罪ノ未遂犯ハ總テ之ヲ罰ス

二 輕罪ノ未遂犯ハ法律ニ明文アルニ非サレハ之ヲ罰スルコトナシ其明文アルモノ概テ

左ノ如シ

一 内亂ニ關スル罪

一 囚徒逃走ノ罪

一 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造スル罪

一 往來通信ヲ妨害スル罪

一 官印ヲ偽造スル罪

一 私印私書ヲ偽造スル罪

- 一 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
 - 一 竊盜ノ罪
 - 一 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
 - 一 火藥取締規則第二十五條ノ罪
 - 一 郵便條例第二百三十三條第二百三十七條ノ罪
 - 一 電信條例第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ノ罪
 - 一 海底電信線保護萬國聯合條約罰則第一ノ條罪
 - 三 違警罪ノ未遂犯ハ總テ之ヲ罰セス
- 第四十六條 犯罪ニ着手スト雖モ事理ニ於テ其目的ヲ遂ケ得ヘカラサルモノハ不能犯ニシテ未遂犯ト爲ス可カラス
- 不能犯ハ法律上之ヲ罰セスト雖モ其所爲ニ因リ別罪ヲ構成ズルコトアリ例ヘハ人ヲ毒殺セントシタルニ其藥質人ヲ殺スニ足ラサルモ爲タシ其人ノ健康ヲ害スルニ至リタルノ類是ナリ

ナリ

第四十七條 犯罪ニ着手スト雖モ自ラ其事ヲ中止シタル時ハ之ヲ遂ケサルノ原由障礙外錯ニ非サルヲ以テ亦未遂犯ト爲ス可カラス

犯罪ヲ中止シタル場合ハ法律上之ヲ罰セスト雖モ中止前ノ所爲ノミニ因リ別罪ヲ構成スルコトアリ例ヘハ竊盜ヲ爲サントシテ人ノ邸宅ニ入り自ラ其事ヲ中止シタル時ハ人ノ住所ヲ侵スノ罪アルノ類是ナリ

第四十八條 犯罪着手前ノ所爲ハ法律上之ヲ罰セス但内亂外患ニ關スル罪貨幣ヲ偽造スル罪等ニ付キ陰謀豫備ヲ罰スルハ例外トス

第三節 數人共犯

第四十九條 數人共犯ニ三様アリ二人以上合同シテ現ニ罪ヲ犯ス者人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシムル者及ヒ人ノ罪ヲ犯スコトヲ知り豫備ノ所爲ヲ以テ幫助スル者はナリ現ニ罪ヲ犯ス者及ヒ犯罪ヲ教唆スル者ハ正犯トシ犯罪ヲ幫助スル者ハ從犯トス

第五十條 教唆者及ヒ從犯ヲ罰スルハ重罪輕罪ニ止リ違警罪ニ於テハ之ヲ罰セス

第五十一條 二人以上合同シテ現ニ罪ヲ犯ス時ハ情ノ輕重所行ノ異同ニ拘ラス各自同一ノ罪アルモノトス

第五十二條 二人以上合同シテ現ニ罪ヲ犯スノ際其一人又ハ數人臨時他罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ他ノ犯人ニ及ホス可キモノニ非ス然レモ本罪ニ關係シタル事件ニシテ他ノ犯人之ヲ豫知シタル其時ハ罪ヲ免ルヽヲ得ス

第五十三條 二人以上合同シテ罪ヲ犯シタル時其一人又ハ數人幼年若クハ知覺精神ノ喪失等ニ因リ減免ヲ得ルト雖モ他ノ犯人ハ其利益ヲ得ヘキモノニ非ス

第五十四條 教唆者ノ罪ハ脅迫贈與威權結約其他被教唆者ヲシテ犯罪ノ意ヲ決定セシムルニ足ル可キ方法ヲ用ヒ且被教唆者其事ヲ實行スルニ因テ成立ス

若シ被教唆者ノ犯シタル罪全ク異質ニシテ教唆ヨリ出タルモノニ非サル時ハ教唆者ノ罪成立セス

第五十五條 從犯ハ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシムル者ニシテ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示スル等ノ別アリト雖モ其所爲ハ毎ニ犯罪着手ノ前ニ在リ若シ犯罪ノ當時直接ニ幫助スル者ハ即チ正犯ニシテ從犯ト爲ス可カラズ

第五十六條 從犯ノ罪ハ正犯ノ罪ト同時ニ成立ス故ニ正犯現ニ其事ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ罪ト爲ラサル時ハ從犯亦罪ナシトス但正犯ノ身分ニ因リ不論罪ト爲ル場合ハ此限ニ在ラス

第五十七條 犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示スト雖モ正犯其器具ヲ使用セス又ハ其誘導指示ニ從ハサル時ハ正犯ノ罪成立スルモ從犯ノ罪成立セス

正犯其器具ヲ使用シ又ハ其誘導指示ニ從フト雖モ全ク異質ノ罪ヲ犯シ從犯其事實ヲ豫知セサル時亦同シ

第五十八條 共犯罪一般ノ成立ハ前數條ニ記載シタル如シト雖モ酒造稅則煙草稅則ノ如キ收稅ニ關スル罰例及ヒ古物商取締條例質屋取締條例ノ如キ營業取締ニ關スル罰例ニ於テ

ハ止メ其營業者ヲ罰シ爆發物取締罰則新聞紙條例集會條例ノ如キ治安ニ關スル罰例ニ於テハ共犯ノ區域ヲ擴メ又ハ特定ノ者ノミヲ罰スル等ノ特例アリ其他諸罰則ニ於テハ共犯ノ特例アルモノ多シ

第四節 不論罪及ヒ刑ノ全免

第五十九條 不論罪トハ外形上犯罪タル可キノ所爲アリト雖モ法律上之ヲ罪トセサルモノヲ謂ヒ刑ノ全免トハ犯罪已ニ成立スト雖モ法律上特ニ定メタル事由ノ爲メ全ク其刑ヲ免スルモノヲ謂フ

不論罪及ヒ刑ノ全免ヲ得ヘキモノハ公訴ノ目的ナキニ因リ其事實明瞭ナルニ於テハ搜查ヲ爲ス可キモノニ非ス但不論罪ニシテ懲治場ニ留置ス可キモノハ此限ニ在ラス

第六十條 不論罪ニ二種アリ各種ノ犯罪ニ適用ス可キモノヲ一般ノ不論罪ト謂ヒ特種ノ犯罪ニ適用ス可キモノヲ特別ノ不論罪ト謂フ

第六十一條 一般ノ不論罪ハ左ノ如シ

- 一 抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非スシテ爲シタル者
- 二 天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル者
- 三 法律又ハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者
- 四 罪ヲ犯ス意ナキ者但法律規則ニ於テ特例アルモノヲ除ク
- 五 罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラサル者
- 六 知覺精神ヲ喪失シタル者
- 七 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿タサル者
- 八 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳以下ニ滿タスシテ是非ヲ辨別セサル者但違警罪ヲ除ク

九 瘡啞者

第六十二條 前條ニ記載シタル者ハ一般ニ其罪ヲ論セスト雖モ酒造稅則煙草稅則證券印稅

規則等ノ諸訓例ニ於テハ全ク不論罪ノ例ヲ適用セス又ハ其一部ヲ適用セサルモノアリ

第六十三條 特別ノ不論罪ハ左ノ如シ

- 一 自己又ハ他人ノ身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者

但不正ノ所爲ニ依リ自ラ暴行ヲ招キタル者ヲ除ク

- 二 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者

- 三 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者

- 四 夜間故ナク邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者

- 五 犯罪人ノ親屬ニシテ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者

- 六 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ竊盜ノ罪遺失物埋藏物ニ關スル罪詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪ヲ犯シタル者

第六十四條 刑ヲ全免ス可キ場合ハ左ノ如シ

- 一 貨幣偽造變造ノ情ヲ知り雇ヲ受ケタル職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者其貨幣行使前ニ於テ自首シタル時

- 二 偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至テサル前ニ於テ自首シタル時

- 三 誣告ヲ爲シタル者被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ自首シタル時

- 四 地租條例ニ違犯シタル者自首シタル時

- 五 竊ニ米穀金銀貨標式及ヒ諸物品ノ限月賣買等ヲ爲シタル者自首シタル時

- 六 富籤賣買ニ關スル犯罪者自首シタル時但沒收ス可キ物件アル場合ヲ除ク

第二章 搜查權ノ停止

司法警察訓則

第六十五條 捜査權ハ犯罪ノ成立ニ起因スルモノニシテ被害者ノ告訴アルト否トニ關係スルコトナシ然レモ人ノ内行若クハ名譽ニ關シ其事ヲ摘發スルニ於テハ却テ害ヲ被害者ニ加フルノミナラス爲メニ一般ノ風俗ヲ敗ルノ恐アルモノアリ又ハ其害ノ有無被害者ニ非サレハ之ヲ鑒別スルヲ能ハス隨テ其犯罪ノ成立セシヤ否ヲ確知スルコトヲ得サルモノアリ故ニ此種ノ犯罪ニ付テハ法律規則ニ於テ特例ヲ設ケ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツ可キモノト定メタルニ因リ其告訴アルマテ捜査處分ヲ停止セサル可カラス

第六十六條 左ニ記載シタル事件ハ被害者ノ告訴ヲ要ス但第九項以下ノ事件ニ付テハ其親屬亦告訴ヲ爲スヲ得

- 一 有夫姦ノ罪但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル時ハ告訴ノ效ナシ
- 二 誹毀ノ罪但死者ヲ誹毀スル罪ニ付テハ其親屬ノ告訴ヲ要ス
- 三 他人ノ所有ニ屬スル牛馬以外ノ家畜ヲ殺ス罪
- 四 公然人ヲ罵詈嘲弄スル罪

五 他人ノ寫眞版權ヲ侵ス罪

六 他人ノ商標ヲ冒ス罪

七 他人ノ專賣權ヲ侵ス罪

八 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ正誤ノ請求ニ應セサル罪
九 脅迫ノ罪

十 幼者ヲ零取誘拐スル罪但幼者式ニ從テ婚姻シタル時ハ告訴ノ效ナシ又幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付スル罪ハ告訴ヲ要スルノ限ニ在ラス

十一 猥褻姦淫ノ罪但幼者ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合スル罪及ヒ猥褻姦淫ニ因テ人ヲ死傷ニ致ス罪ハ告訴ヲ要スルノ限ニ在ラス

第六十七條 被害者ノ告訴ヲ要スル事件ト雖モ本人無能力ナル時ハ法律ニ定メタル代人ヨリ告訴ヲ爲スモ其效アリトス

法律上ノ代言人ト雖モ有夫姦ノ罪ニ付テハ本夫白痴瘋癲ナル場合ノ外告訴ノ權ナシ

又財産管理人ハ財産ニ關スル犯罪ノ外告訴ノ權ナシ
参照

○明治十四年第七拾三號布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通
無能力者

- 一 未丁年者
 - 二 妻タル者
 - 三 白痴瘋癲人
 - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一 未丁年者ノ父若シハ母又ハ親屬後見人
 - 二 夫タル者

三 白痴瘋癲人ノ保管人

四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

民事擔當人

- 一 未丁年者ノ父若シハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管人
- 四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

第六十八條 親屬ノ告訴ハ被害者ノ爲メニ之ヲ爲スモノナルヲ以テ被害者ノ意思ニ反スル
告訴ハ其効ナシ

第三章 捜査權ノ消滅

第六十九條 捜査權ハ公訴權ト其起因ヲ同クスルノミナラス亦同一ノ原由ニ因テ消滅ス故

ニ其消滅ハ治罪法第九條ニ記載シタル公訴權消滅ノ場合ト差異ナキモノトス

第七十條 捜査權消滅シタル時ハ捜査ニ着手ス可カラス既ニ着手シタル場合ニ於テハ之ヲ繼續ス可カラズ故ニ捜査權ノ起因ニ注意スルト同時ニ其消滅ノ原由ニ注意ス可シ

第一節 被告人ノ死去

第七十一條 刑ハ其人ニ止リテ他人ニ及ハス故ニ被告人死去スル時ハ公訴權消滅スルヲ以テ其捜査權亦消滅ス

第七十二條 數人共犯ノ場合ニ於テハ被告人死去スル者アリト雖モ他ノ正犯從犯ニ付テハ捜査權消滅スルモノニ非ス

第二節 告訴ノ棄權私和

第七十三條 告訴ノ棄權私和ニ因リ捜査權消滅スルハ第六十六條ニ記載シタル事件ニ限ルモノニシテ其他ノ事件ニ付テハ棄權私和アリト雖モ捜査權消滅スルモノニ非ス

第七十四條 告訴ノ棄權私和ハ始審終審ヲ問ハス本案ノ裁判言渡ニ至ルマテ何時ニテモ之

ヲ爲ス事ヲ得

第七十五條 法律ニ定メタル代人ハ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ事件ニ付テハ其棄權私和ヲ爲スコトヲ得

親屬ハ被害者ノ意思ニ反シ棄權私和ヲ爲スコトヲ得ス

第七十六條 告訴ノ棄權私和ハ被告事件ノ全部ニ係ルモノナルヲ以テ數人共犯ノ場合ニ於テ其一人ニ對シ棄權私和ヲ爲シタル時ハ他ノ被告人亦其利益ヲ受クルモノトス

第三節 確定裁判

第七十七條 確定裁判ヲ經タル事件ハ被告人ノ利益ノ爲メ非常上告再審ノ訴ヘアリタル場合ノ外罪名ノ變更アルモ再理ス可カラサルニ因リ其捜査權亦消滅ス

第七十八條 確定裁判トハ上訴期限ヲ經過シ又ハ上訴ヲ經盡シテ復タ之ヲ動カス可カラサルモノヲ謂フ故ニ裁判ヲ經ルト雖モ上訴期限内及ヒ上訴中ニ於テハ捜査權消滅セス

第七十九條 確定裁判ニ因テ捜査權ノ消滅スルハ公判本案ノ言渡及ヒ豫審免訴ノ言渡ニ限

ル但豫審免訴ノ言渡確定スト雖モ新ナル證據アル時ハ格別ナリトス
第八十條 確定裁判ノ効ハ其裁判ヲ受ケタル者ニ止リ其他ノ者ニ及ハス故ニ共犯人中既ニ
確定裁判ヲ經タル者アリト雖モ他ノ犯人ニ付テハ搜查權消滅セス

第四節 刑ノ廢止

第八十一條 法律ハ既往ニ溯ラスト雖モ所犯頒布以前ニ在ルモノハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ
ニ從テ處斷ス故ニ舊法刑名アルモノニシテ新法之ヲ廢止スル時ハ新法ニ從ヒ不問ニ付ス
可キモノナルニ因リ其搜查權亦消滅ス

第八十二條 刑ノ廢止ハ新法ニ於テ之ヲ明示スルモノアリ之ヲ明示セサルモ新法ニ牴觸ス
ルニ因リ廢止ト爲ルモノアリ法律ヲ改正シ舊法中明文アルモノヲ除キタルカ爲メ廢止ト
爲ルモノアリ其方法一樣ナラスト雖モ搜查權ノ消滅スルハ同一ナリトス

第五節 大赦

第八十三條 大赦ハ特赦ノ如ク刑ヲ免スルニ非ス罪ヲ消滅セシムルノ恩典ナリ故ニ大赦ヲ

經タル事件ニ付テハ搜查權消滅ス

第八十四條 大赦ハ發令前ノ犯罪ニ限リ發令後ノ犯罪ニ及フ可キモノニ非ス

第六節 公訴ノ期滿免除

第八十五條 總テ犯罪ハ其種類ニ因リ法律ニ定メタル期限即チ重罪ハ十年輕罪ハ三年違警
罪ハ六月ヲ經過スル時ハ公訴ノ期滿免除ヲ得ルニヨリ其搜查權亦消滅ス

第八十六條 期滿免除ノ期限ハ即時犯ニ付テハ犯罪ノ日ヨリ起算シ繼續犯ニ付テハ最終ノ
日ヨリ起算シ連續犯ニ付テハ一罪毎ニ犯罪ノ日ヨリ起算ス

第八十七條 即時犯トハ其罪即時ニ終成スルヲ謂ヒ繼續犯トハ同一ノ罪ニシテ多少ノ時日
其所爲繼續スルヲ謂ヒ連續犯トハ其意思繼續シテ數次同一ノ罪ヲ犯スヲ謂フ

第八十八條 期滿免除ハ公訴ノ提起及ヒ實行ニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷ス故ニ起訴及ヒ豫
審公判ノ手續アリタル時ハ其期限ヲ經過スト雖モ期滿免除ヲ得ヘカラス但管轄違以外ノ
原由ニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラス

第八十九條 期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタル場合ニ於テハ其處分以前及ヒ處分中ノ日數ハ期滿免除ノ期限ニ算入スルコトヲ得ス若シ其處分ヲ止メタル時ハ更ニ其日ヨリ期滿免除ノ期限ヲ起算ス

期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スト雖モ犯罪ノ日ヨリ起算シテ通常期限ノ二倍ヲ經過スル時ハ期滿免除ヲ得但中斷シテ其處分ヲ繼續スル場合ハ此限ニ在ラス

第九十條 中斷ノ效ハ被告事件ノ全部ニ及フモノナルヲ以テ共犯人中一人又ハ數人ニ對シ中斷ノ處分ヲ爲シタル時ハ未ダ發覺セサル正犯從犯ト雖モ期滿免除ヲ得ヘカラス

第三編 捜査着手

第一章 捜査着手ノ理由

第九十一條 捜査ハ適法ノ理由即チ告訴發發現行犯自首新聞風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルヲ認識シ又ハ犯罪アリト思量シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第九十二條 適法ノ理由ニ因リ犯罪アルヲ認識シタル場合ニ非スシテ捜査ニ着手ス

ルハ公安ヲ妨ケ人ノ名譽ヲ害スル等ノ弊アルヲ以テ妄ニ犯罪アル可シト豫想シ隱密探偵等ヲ爲ス可カラズ

第一節 告訴及ヒ告發

第九十三條 告訴ハ被害者ノ親告ニシテ告發ハ被害者ニ非サル者ノ申告ナリ其名異ナリト雖モ共に犯罪アリタルヲ當該官ニ申告スルモノナルニ付キ告訴ト稱ス可キヲ告發ト稱シ告發ト稱ス可キヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモ其申告ヲ受ケ宜ク其實ニ從テ處分ス可シ

第九十四條 告訴告發ハ如何ナル事件ト雖モ却下ス可キモノニ非ス然レモ法律規則ニ違犯ノ廉ナシト思量シ且其中立ノ罪名亦輕微ナル時ハ本人ニ示諭シテ取下ヲ爲サシムルコトヲ得若シ承認セサル時ハ之ヲ受付シテ相當ノ手續ヲ爲サシムル可カラズ

第九十五條 書面ヲ以テ告訴告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セサル可シト思量スル時ハ宜ク其取調ヲ爲ス可シ

第九十六條 口述ヲ以テ告訴告發ヲ爲シタル時ハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ調書ヲ作り本人ニ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ

第九十七條 告訴告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタル時ハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシメ又ハ其陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ

第九十八條 前二條ノ場合ニ於テ本人署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ調書ニ附記ス可シ但氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印セシムルモ妨ケナシ

第九十九條 告訴告發ヲ受クル時ハ成ル可ク犯罪ノ性質方法日時場所被告人證人ノ住所氏名其他證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立シム可シ

第一百條 被告人ヲ指名シテ告訴告發ヲ爲シタル時ハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ熟察シ其誣罔ニ出ルコトナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第一百一條 告訴ヲ受ケタル證書ハ告訴人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ渡スニ及ハス

第一百二條 代人ノ告訴告發ニ係ル時ハ委任狀ヲ差出サシム可シ但法律ニ定メタル代人告訴ヲ爲ス時ハ此限ニ在ラス

第一百三條 告訴告發ノ願下アルモ其書面ハ却下スルモノニ非ス更ニ本人ノ署名捺印シタル願下申立書ヲ差出サシム可シ

第一百四條 口述ヲ以テ願下ヲ爲ス時ハ其申立ヲ錄取シ本人ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ第九十八條ノ例ニ從フ可シ

第一百四條 官吏職務上ノ告發ハ其署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル場合ニ於テハ電信又ハ口述ノ告發ヲ受クルモ妨ケナシ

第一百五條 告訴ヲ受ク可キ管轄官吏左ノ如シ

一 重罪輕罪ニ付テハ犯罪ノ地若シハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事司法警察官

二 違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官司法警察官

一 重罪輕罪ニ付テハ告發人所在ノ地若シハ犯罪ノ地ノ豫審判事檢事司法警察官

二 重罪輕罪ニ付キ官吏職務上ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ檢事

三 違警罪ニ付キ官吏職務上ノ告發ハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官司法警察官

第百七條

重罪輕罪ニ付キ官吏職務上ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ司法警察官其取次ヲ爲ス

第百八條 告訴告發ヲ受ケタル官吏ハ第四百二十二條以下ノ區別ニ從ヒ速ニ其事件ヲ送致ス

可シ但豫審判事治罪法第百十四條以下ノ場合ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スハ格別ナリトス

第百九條

檢事司法警察官ハ告訴告發ニ係ル事件ノ模様ニ因リ搜查ニ着手スルト否トオ定

ム可シ

第二節 現行犯

第百十二條 現行犯ハ罪ト爲ル可キ所爲又ハ其犯人ヲ認メ得ヘキ有形上ノ模様アルモノニ

シテ特別處分ノ制限トス

第百十二條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノ

ヲ現行犯トス

現ニ行フ際トハ罪ト爲ル可キ所爲ノ繼續スル時間ヲ謂ヒ現ニ行ヒ終リタル際トハ罪ト爲

ル可キ所爲ヲ止メタル當時又ハ之ヲ止メタルヨリ些少ノ時間ヲ經過スルモ其痕跡現存シ

テ犯狀ヲ認ムルニ容易ナル時間ヲ謂フ

發覺トハ犯人ノ誰タルコトヲ知ラスト雖モ當該官ニ於テ其事件ヲ覺知シテ處分ニ着手シ又

ハ常人ノヲ覺知シテ當該官ノ處分ニ供スルヲ謂フ

第百十三條 重罪輕罪ニ付テハ現行犯ニ准ス可キモノアリ其場合左ノ如シ

一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルル時此場合ニ於テハ犯人トシテ追呼スル者及ヒ

追呼セラレテ遁逃スル者アルヲ要ス然レモ犯罪者タルコトヲ諳ルニ當リ直ニ遁逃スル時

ハ別ニ追呼者アルヲ要セス
 三兇器贓物其他犯罪ニ關スル物件ヲ携帯シ犯人ト思料ス可キ時
 三家宅内ノ犯罪ニシテ戸主又ハ戸主ニ代ル可キ者ヨリ其檢證又ハ其家宅内ニ在ル被告人
 逮捕ノ處分ヲ當該官ニ請求シタル時

第百十四條 前條ニ記載シタル場合ノ外犯人ト思料ス可キ舉動アル時ハ亦現行犯ニ准スル
 一ヲ得此場合ニ於テハ專ラ當該官ノ思料ニ任スト雖モ充分ナル因由徵憑ナカル可カラス
 參照

○明治十四年第四拾六號布告第四項

治罪法第百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當
 分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得

第三節 特種ノ發見

第百十五條 告訴發發現行犯ノ外自首新聞風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アル事ヲ

知思料スルヲ特種ノ發見トス

第百十六條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免カレシ
 ムル爲メ自ラ誣ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜
 シ其虛實及盡不盡ヲ視察ス可シ

第百十七條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説アル時ハ其出所原因等ヲ
 取調ヘ其虛實ヲ視察スヘシ

第百十八條 變死創傷及ヒ隠藏物件等ヲ發見シタル時ハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ヲ視察ス
 可シ

第二章 捜査着手ノ心得

第百十九條 犯罪アレハ必ス捜査權アリ然レモ其實行ニ至テハ事ノ輕重ニ因リ寬嚴其度ニ
 適セサル可カラス故ニ犯罪アルヲ認知思料スル時ハ先ツ其全體ヲ通觀シ其關係ヲ熟察
 シテ事實適當ノ處分ヲ爲ス可シ

第二百十條 人ノ内行ニ關シ若クハ親屬間ニ生スル犯罪又ハ輕微ナル犯罪ニシテ其害一般ニ及ハサル場合ニ於テ一概ニ之ヲ檢舉スル時ハ却テ安寧風俗ヲ害スルコトアルニ因リ其土俗民情等ヲ觀察シ搜查權ヲ實行スルヲ否ト決定スルハ

第二百十一條 刑法第二編第一章ニ記載シタル犯罪ハ固ヨリ之ヲ嚴罰セサル可カラズ然レ其事實ヲ精査セス濫ニ之ヲ檢舉スルハ却テ法律ノ趣旨ニ反ス故ニ搜查着手前充分ノ注意ヲ爲シ決シテ輕忽ノ處分ヲ爲ス可カラス

第二百十二條 刑法第二編第二章ニ記載シタル犯罪ハ機先ヲ察知シテ其陰謀又ハ豫備中ニ防制スルヲ要ス然レ其陰謀ニ係ルモノ、如キハ證據ヲ得ル極メテ難シ若シ搜查ニ着手シテ證據ヲ得サル時ハ却テ不良ノ結果ヲ生スルニ因リ輕忽ニ人ノ身體財産ニ對スル處分ヲ爲ス可ラス

第二百十三條 官吏ノ犯罪ハ固ヨリ寛假ス可キモノニ非ス然レ其搜查處分其當ヲ得サル時ハ施政上妨害ヲ生スルコトアルヲ以テ被告人官等ノ高下事件ノ大小ヲ問ハス充分ノ注意

ヲ爲ス可シ

第二百十四條 外國人ノ犯罪ハ其處分ノ當否ニ因リ重大ノ關係ヲ生スルコトアルヲ以テ事件ノ大小ヲ問ハス失誤ナキコトヲ勉メサル可カラス

第四編 搜查處分

第二百十五條 搜查處分ハ犯罪ノ原由性質方法情狀日時場所被害ノ形狀多寡被告人ノ氏名年齢職業住所身分品行前科ノ有無及ヒ證人ノ誰タルコト其他證據ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ

第二百十六條 搜查處分ハ公力ヲ以テ執行ス可キモノニ非ス故ニ家宅ヲ搜索シ物件ヲ差押押ヘ又ハ被告人ヲ引致スルハ特定ノ場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十七條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯ト雖モ其事件ノ模様ニ因リ假豫審ノ處分ヲ必要トセサル場合ニ於テハ搜查處分ヲ以テ其取調ヲ爲ス可シ

第二百十八條 搜查處分ハ本編ニ記載シタルモノ、外第五編ニ定メタル手續ヲ准用スルコト

ヲ得但其手續特ニ像審處分ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第一章 證據及ヒ犯人ノ搜查

第二百二十九條 犯罪ノ場所又ハ證據物件所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ

ハ其處分ヲ爲スコトヲ得但人ノ邸宅内ニ係ル時ハ其戶主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

第二百三十條 犯罪ノ事實ヲ證明ス可キ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾アル時ハ之ヲ領置ス

ルコトヲ得

第二百三十一條 官署内ニ於テ前二條ノ處分ヲ爲サントスル時ハ其長官ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

第二百三十二條 現行犯ト非現行犯トヲ問ハス又臨檢シタル場合ト否トニ拘ラス搜查上必要

トスル時ハ證人鑑定人及ヒ被告人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ取調ヲ爲スコトヲ得

第二百三十三條 呼出ヲ爲スニハ報知書ヲ用フ可シ但時宜ニ因リ巡查憲兵卒又ハ小使等ヲシ

テ口達セシムルモ妨ケナシ

卅四條 報知書ハ巡查憲兵卒又ハ小使等ヲ送致セシメ若クハ郵便ヲ以テ送致ス可シ

第二百三十五條 證人ヲ取調フルニハ宣誓ヲ用ヒス其陳述ハ之ヲ錄取シ一件書類ニ添置シ可

シ但事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アル時ハ手續書若クハ始末書ヲ差出サシムルモ妨ケ

ナシ

第二百三十六條 鑑定ヲ爲サシムルニハ宣誓ヲ用ヒス其結果ハ鑑定書ニ記載シ之ヲ差出サシ

ム可シ

第二百三十七條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ其物件

重要ナル證據ト爲ル可キモノナル時ハ上搜查鑑定ヲ爲サシム可カラス但腐敗其他ノ原由

ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラサル時ハ此限ニ在ラス

第二百三十八條 搜查上被告人ヲ取調フルコトヲ得ルト雖モ輕忽ニ着手スル時ハ人ノ名譽ヲ毀

損シ又ハ被告人逃走證據湮滅ヲ招クノ恐アリ宜ク犯罪ノ種類被告人ノ身分及ヒ情狀等ヲ

斟酌ス可シ

第二百二十九條 被告人ノ誰タルコトヲ知り得サル場合ニ於テ之ヲ搜索スルノ方法ハ固ヨリ豫

定シ難シト雖モ犯罪ノ方法遺留ノ物件等ニ因リ先ツ其所爲ノ巧拙被告人ノ職業及ヒ其員數等ヲ鑑別スルヲ緊要トス

第四百十條 前條ニ記載シタルノ外新聞風説其他古物商質屋兩替屋旅館屋飲食店貸坐敷等

ニ於テ被告人發見ノ端緒ヲ得ルコト少カラス宜ク注意ス可シ

第二章 被告事件交付

第四百十一條 犯罪捜査ハ成ル可ク事件ノ大體ニ注意シ其要領ヲ得タル時ハ左ノ各條ニ從

ヒ被告事件交付ノ手續ヲ爲ス可シ但交付後ト雖モ仍ホ捜査ヲ爲スコトヲ得

被告事件ヲ交付スル時ハ證據物件ヲ添ヘ且參考ト爲ル可キ事項ヲ通知ス可シ

第四百十二條 豫審判事司法警察官重罪輕罪ヲ捜査ヲ爲シタル時ハ速ニ其事件ヲ檢事ニ送

致ス可シ

第四百十三條 檢事自ラ重罪輕罪ノ捜査ヲ爲シ又ハ豫審判事司法警察官ヨリ其送致ヲ受ケ

タル場合ニ於テハ治罪法第七條ニ從ヒ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

5

第四百十四條 違警罪ニ付テハ其捜査ヲ爲シタル者ヨリ直ニ管轄警察署ニ送致ス可シ

第四百十五條 陸海軍人軍屬ノ犯罪ニ係ル時ハ其捜査ヲ爲シタル者ヨリ直ニ管轄法衙ノ檢

察官又ハ被告人ノ所屬長ニ送致ス可シ但憲兵設置ノ地方ニ於テハ違警罪ニ限リ憲兵屯所

ニ送致ス可シ

第四百十六條 軍人軍處任官若シハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺シタル者又ハ歸休兵

及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若シハ舊罪發覺シタル者ハ亦前條ノ手續ニ

從フ可シ

其在官現役中又ハ召集中罪ヲ犯シ免官免役若シハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ同

シ

第四百十七條 外國人ノ犯罪ニ付テハ其捜査ヲ爲シタル者ヨリ管轄領事廳所在ノ地ノ檢事

ニ送致シ檢事ヨリ領事ニ其處分ヲ請求ス可シ但領事廳所在ノ地方ニ於テハ其捜査ヲ爲シ

タル者ヨリ直ニ其處分ヲ請求スルコトヲ得

朝鮮國人及七條約未濟國人ノ犯罪ニ係ル時ハ第四百二十二條以下ノ手續ニ從フ可シ
參照

○明治九年司法省甲第十二號布達

明治八年當省甲第三號ヲ以テ布達候內國人ヨリ外國人ニ係ル民事刑事ノ訴訟手續中今般
左ノ通相定候條此旨布達候事

第一條 內國人原告ニテ外國人ニ係ル刑事並ニ民刑附帶ノ訴訟ハ檢事其他ノ警察官東京
ニ視廳其他ノ府ニ於テ之ヲ承ケ直ニ被告人管轄ノ外國領事ヘ照會シ裁判ヲ求ム可シ
警縣ハ地方官

第五編 假豫審

第四百十八條 司法警察官重罪輕罪ノ現行犯准現行犯ニ付キ治罪法第二百五條ノ處分ヲ爲
ステ假豫審トス

第四百十九條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハス假豫審處分ヲ爲ステ得
得

第五百十條 准現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シ之ヲ訊問シタル後ニ非サレハ其他ノ假豫審
處分ヲ爲スコトヲ得ス

數人共犯ノ場合ニ於テ一人ヲ逮捕シタル時ハ他ノ正犯從犯ニ對シ假豫審處分ヲ爲スコト
ヲ得

家宅内ノ犯罪ニ付キ戶主又ハ戶主ニ代ル可キ者ノ請求ニ因リ檢證處分ヲ爲シタル時ハ被
告人ヲ逮捕セスト雖モ其他ノ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 現行犯ノ豫審ハ治罪上ノ特例ニシテ司法警察官假豫審ヲ爲スハ又其特例ナ
ルヲ以テ犯罪ノ性質被告人ノ身分等ニ因リ急速ノ處分ヲ要セサル時ハ假豫審ヲ爲ス可カ
ラズ

又假豫審ニ着手シタル場合ト雖モ成ル可ク急速ヲ要スル處分ニ止ム可シ
第五百十二條 假豫審ニ着手シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタル時ハ復タ假豫審處
分ヲ爲スコトヲ得ス

第一百五十三條 假豫審ニ着手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲ爲サントスル時ハ速ニ之ヲ讓ル可シ

第一百五十四條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ方法性質日時場所其他犯罪ニ關スル證憑ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ル可キ證憑ニ付テモ亦其取調ヲ爲ス可シ

第一百五十五條 假豫審ニ關スル調書其他ノ書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ル可シ但時宜ニ因リ巡查憲兵卒等ヲシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

書類ヲ作ルニハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ旨トス可シ

第一百五十六條 假豫審ニ關スル書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日時場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ

又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ス時ハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀得ヘキ爲メ其字體ヲ存ス可シ

第一百五十七條 假豫審處分ヲ爲シタル時ハ第四百四十一條以下ニ從ヒ被告事件交付ノ手續ヲ爲ス可シ

第一百五十八條 假豫審ニ着手シタル後其取調ヲ繼續ス可キモノニ非スト思料スル時ハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ放免シ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

第一章 檢證及ヒ物件差押

第一百五十九條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスル時ハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

第一百六十條 檢證處分ニ付テハ被告人ノ家宅ヲ搜索スルコトヲ得

又事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スルノ疑アル時ハ他人ノ家宅ト雖モ搜索ヲ爲スコトヲ得

第一百六十一條 家宅内ニ於テ檢證處分ヲ爲スニハ戶主等ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ル可シ檢證前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトヲキテ得ス

第一百六十二條 事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スル者ト雖モ藏匿ノ情ナキ時ハ成ル可シ家宅

搜索ヲ爲サス本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシム可シ

第六十三條 檢證ノ場所ニ於テ發見シタル物件其出所性質形狀用方等ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル可シト思料シタル時ハ之ヲ差押フ可シ

醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人公證人若クハ神官僧侶其身分職業ニ關シ委託ヲ受ケタル秘密ノ書類等ハ其承諾ヲ得ルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得ス

第六十四條 家宅内ノ檢證ニ付テハ戶主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴癲癩幼年者ナル時ハ戶長ヲシテ立會ハシム可シ

第六十五條 官署内ニ於テ檢證ヲ爲ス時ハ其長官又ハ其指名シタル者ノ立會アルヲ要ス第六十六條 檢證ヲ爲ス場合ニ於テ被告人其處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシメン

コトヲ請求スル時ハ勾留ヲ受ケタル被告人ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス又處分上必要トスル時ハ勾留ヲ受ケタル被告人ト雖モ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十七條 檢證ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスル時ハ其場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽キ又ハ

鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十八條 家宅内ノ檢證ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但晝間其處分ニ着手シタル時ハ夜間ニ及フモ妨ケナシ

急速ヲ要スル場合ニ於テ戶主ノ承諾アリタル時ハ何時ニ拘ラス檢證ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋賃坐敷ハ日出前日没後ニ拘ラス檢證ヲ爲スコトヲ得

參照

○明治十四年第四十六號布告第五項

治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋賃坐敷ハ日出前日没後ニ拘ハラス搜索致シ苦シカラス

第七十條 家宅内ニ於テ現ニ重罪輕罪ヲ犯ス者アル時ハ何時ニテモ其現場ニ限リ立會人

ナクシテ檢證ヲ爲スコトヲ得但犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ除クノ外立會人アルニ非サレハ
差押ヲ爲スコトヲ得ス

第七十一條 家宅内ノ檢證ヲ爲スニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶牆壁器具等ヲ
損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタル時ハ書類物件ノ紛失毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲ス可シ

第七十二條 家宅搜索ヲ爲スニハ其目的トスル所ノ書類物件ヲ藏ス可シト思料スル器具
ノ外濫ニ開披ス可カラス

第七十三條 檢證處分中雜沓喧噪其他妨害ヲ爲ス者アル時ハ之ヲ制止ス可シ

又何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者ア
ル時ハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十四條 檢證ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事故アリ
テ之ヲ停止スル時ハ證憑湮滅ヲ豫防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコト

ル

ヲ得

第七十五條 檢證處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作り之ヲ立會人ニ讀聞カセ署名捺印セシム
可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

物件差押ヲ爲シタル時ハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ
其拔書又ハ謄本ヲ渡スヘシ

第七十六條 檢證調書ニハ左ノ條件其他檢證ニ關スル一切ノ手續ヲ記載スヘシ

一 檢證ヲ爲シタル年月日場所及ヒ檢證時間

二 犯罪ノ性質方法日時場所被告人ノ人違ナキコトヲ證明スヘキ模様及ヒ被告人ノ利益ト
爲ルヘキ模様

三 被告人ノ氏名若シ分明ナラサル時ハ容貌體格

四 被告人證人ノ陳述但別ニ陳述書ヲ作りタル時ハ之ヲ添付シ其旨ヲ附記スヘシ

五 差押ヘタル物件但別ニ目錄ヲ作りタル時ハ之ヲ添付シ其旨ヲ附記スヘシ

第七十七條 差押へタル物件ハ散佚毀損ヲ防ク爲メ認印若クハ封印ヲ爲シ且其差押ヲ爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付スヘシ

又運搬シ難キ物件ニ係ル時ハ看守者ヲ付スル等便宜ノ處置ヲ爲スヘシ

第七十八條 事實發見ノ爲メ必要トスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署又ハ會社ニ照會シテ被告又ハ關係人ヨリ發シ若クハ是等ノ者ニ對シ發シタル書類電報其他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得但書類電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラス

第七十九條 差押へタル物件ト雖モ裁判所ニ送致スルニ及バサルモノト認ムル時ハ所有者又ハ保管者ニ假渡ヲ爲シ其受取證書ヲ差出サシム可シ

第二章 證人訊問

第八十條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスル時ハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス可シ

證人檢證ノ場所ニ在ル時ハ直ニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 證人ヲ呼出シハ呼出狀ヲ發ス可シ但時宜ニ因リ第三百三十三條第三百三十四條ノ手續ニ從フモ妨ケナシ

第八十二條 呼出狀ニハ證人ノ氏名住所職業出頭ノ日時場所及ヒ被告事件ヲ記載ス可シ又呼出狀ニ應セサル時ハ罰金ヲ言渡サレ且勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ハ治罪法第十九條ニ定メタル路程ノ猶豫ノ外其送達ト出頭トノ間少クモ二十四時ノ猶豫ヲ與フ可シ

參照

○明治十五年第七號布告

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定ム
第八十三條 呼出狀ハ二通ヲ作り巡查憲兵卒ヲシテ送達セシム可シ但時宜ニ因リ其官署所屬ノ小使等ヲシテ送達セシムルモ妨ケナシ
何レノ場合ニ於テモ送達ノ手續ハ第二百七十六條ニ從ハシム可シ

第八十四條 證人呼出狀ニ應セサル時ハ再度ノ呼出狀ヲ發シ又已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第八十五條 證人初度又ハ再度ノ呼出狀ニ應セサル時ハ其旨ヲ檢事ニ告發ス可シ

第八十六條 證人疾病公務其他正當ノ事故ニ因リ呼出狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ前條ノ告發ヲ爲ス可カラス既ニ告發ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

第八十七條 證人ト爲ル可キ者陸海軍在營ノ軍人軍屬ナル時ハ其所屬長官ニ照會シテ其出頭ヲ請求スルコトヲ得

皇族勅任官ハ如何ナル場合ト雖モ證人トシテ呼出スコトヲ得ス

第八十八條 證人ヲ訊問スルニハ其身分年齢等ノ如何ニ拘ラス宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十九條 證人ニハ先ツ其氏名年齢身分職業住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ

第九十條 證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第九十一條 證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁討論ヲ爲ス可カラス若シ其陳述他岐ニ渉ル時ハ之ヲ止メ齟齬アル時ハ之ヲ質スヘシ

第九十二條 證人ハ被告人又ハ他ノ證人ト同時ニ訊問スル時ハ或ハ愛憎畏懼ノ心ヲ生シ又ハ他ノ陳述ニ雷同スルコトアルヲ以テ成ルベシ各別ニ訊問スヘシ

第九十三條 證人ハ時宜ニ因リ被告人及ヒ他ノ證人ト對質セシムルコトヲ得ルト雖モ對質ノ際或ハ言語形容ヲ以テ恐喝依囑シ又ハ通謀指示スル等ノ弊アルニ因リ成ル可ク對質ヲ爲サシムヘカラス

若シ已ムコトヲ得スシテ對質ヲ爲サシムル場合ニ於テハ互ニ直接ノ辨論ヲ爲サシムヘカラス又問ハサル事項ニ付キ陳述ヲ爲サシムヘカラス且速ニ對質ノ完結スルコトニ注意スヘシ

第九十四條 證人ヲシテ證據物件ニ付キ證明セシムルコトヲ要スル時ハ成ルヘク其物件ヲ示スヘシ

第九十五條 證人チシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ付キ證明セシムルコトヲ要スル時ハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十六條 證人又ハ又質人變ナル時ハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナル時ハ書面ヲ以テ答ヘシムヘシ

證者啞者文字ヲ知ラサル時ハ通事ヲ命スヘシ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十七條 證人對質人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ調書ヲ作ルヘシ

調書ハ證人對質人ニ讀聞カセ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシメ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ但對質人ニハ對質ニ關スル部分ノミヲ讀聞ス可シ

證人對質人其陳述ヲ變更増減センコトヲ請求スル時ハ更ニ其陳述ヲ聽キ調書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十八條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスル時ハ醫師穩婆化學士鑑書人彫刻師其他學術職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

第九十九條 死屍ノ解剖毒藥ノ分析其他物件ノ原形ヲ變ス可キ鑑定ハ腐敗又滅盡シ易キ物件ニシテ保存ノ道ナク若クハ犯罪ノ成立ヲ確認スルニ由ナキ場合ニ非サレハ之ヲ爲サシム可カラズ

第二百條 鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖又ハ墳墓ノ發掘ヲ必要トスル時ハ檢事ノ許可ヲ受クヘシ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ爲サシムヘカラス

參照

○明治十年第貳拾貳號布告

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ク其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

第二百一條 鑑定人ヲ呼出スニハ第八十一條以下ノ手續ニ從ヒ且其呼出狀ニハ云々ノ事件ニ付キ鑑定ヲ命スル旨ヲ記載ス可シ但鑑定人呼出狀ニ應セサルモ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第九十一條ハ鑑定ヲ爲サシムルニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第二百二條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干涉拘制ス可カラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ但陰部ニ關スル鑑定ニハ立會ヲ爲ス可カラス

第二百三條 鑑定ノ手續時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサル時ハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ

若シ數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスル時ハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一箇ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシム可シ
鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ每葉ニ契印セシム可シ

第二百四條 鑑定書不明瞭ナル時ハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添置シ可シ

第四章 被告人ノ逮捕及ヒ呼出

第二百五條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ル時ハ犯罪ノ場所及ヒ被告人ノ身分如何ニ拘ラス直ニ之ヲ逮捕ス可シ但其事件ノ模様ニ因リ急速ノ處分ヲ必要トセサル時ハ之ヲ逮捕ス可カラス

第二百六條 現行犯准現行犯ニ付キ現場ヨリ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ラス直ニ之ヲ逮捕スルヲ得

第二百七條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ルヘク穩當ノ方法ニ從ヒ濫ニ劔銃等ヲ用フヘカラス
被告人兇器ヲ持シ抗拒スル等ノ場合ニ於テ已ムヲ得ス劔銃等ヲ用フルモ自衛ノ區域ヲ踰ユヘカラス

第二百八條 假豫審ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルヲ得

被告人他ノ管轄地内ニ在ル時ハ其他ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託ス可シ
若シ其事件急速ヲ要スル時ハ巡查憲兵卒ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕
ヲ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

参照

○明治十四年第四拾六號布告第七項

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルコトヲ得サル旨記載有之候
ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカラス

第二百九條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ勾引狀期限内ノ夜間ニ限り留
置場ニ入置シ得

参照

○明治十四年第五拾九號布告

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時

間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置シ可シ

第二百十條 勾引狀ノ期限ハ護送途中ノ時間ヲ除キ現ニ被告人ヲ引致シタル時ヨリ起算シ

テ四十八時ヲ過シヘカラ若シ其期限ヲ過クル時ハ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ被告人ヲ釋
放スヘシ

拘引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第二百十一條 常人ニ於テ現行犯准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスル時ハ成ル
ヘク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第二百十二條 現行犯准現行犯ニ付キ巡查憲兵卒又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタル時ハ逮
捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ヲ密問シテ其調書ヲ作ル可シ

逮捕ヲ爲シタル者ヨリ始末書又ハ手續書ヲ差出シタル時ハ之ヲ調書ニ添置シ可シ

第二百十三條 現行犯准現行犯ノ被告人ヲ訊問シタル後必要トスル時ハ拘留狀ヲ發スルコ
トヲ得

第二百十四條 拘留狀ノ期限ハ之ヲ執行シタルヨリ十日ヲ過ク可ラス但被告人ヲ送致スル途中ノ日數ハ期限ニ算入セス

第二百十五條 拘引狀拘留狀ニハ被告事件被告人ノ氏名職業住所及ヒ年月日時ヲ記載スヘシ其氏名明分ナラサル時ハ容貌體格等ヲ明示スヘシ又勾留狀ニハ被告人ヲ勾留ス可キ監倉ヲ定示ス可シ

第二百十六條 勾引狀勾留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但勾留狀ヲ受ク可キ被告人既ニ留置セラレタル時ハ第八十三條ニ從ヒ之ヲ本人ニ送達セシム可シ

第二百十七條 勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ其令狀ニ記載シタル監倉ニ勾留ス可シト雖モ取調上必要ナル時間ハ留置場ニ入置クコトヲ得

第二百十八條 現行犯准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ留置スルコトヲ必要トセス又ハ留置ス可カラサルモノト思料スル時ハ直ニ被告人ヲ釋放ス可シ既ニ勾留狀ヲ發シタル時ハ之ヲ取消シ又ハ責付ヲ爲ス可シ但保釋ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十九條 責付ノ手續ハ明治十四年第四拾七號布告及ヒ明治十六年司法省丙第八號達ニ准ス可シ

参照

○明治十四年第四十七號布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應ジ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ理由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○明治十六年司法省丙第八號達

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所へ相達候條此旨爲心得相達候事

丁第三十一號達

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク可キコトハ言ヲ待タズ其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルコトヲ得ス若シ已ムヲ得サル事由アルキハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置クヘシ
若シ同居人アラサルキハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ

第三條 代言人辨護人又ハ代人トシテ法庭ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルヲ得ス

第四條 治罪法第二百一十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二

百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

第二百二十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テハ現行犯ト雖モ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ス若シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル時ハ直ニ引致スルヲ得

第二百二十一條 被告人ヲ逮捕スルヲ許サス又ハ逮捕スルヲ必用トセサル場合ニ於テ其訊問ヲ要スル時ハ之ヲ呼出スヲ得

第二百二十二條 被告人ヲ呼出スニハ召喚狀ヲ發ス可シ但第三百三十三條第三百三十四條ノ手續ニ從フモ妨ケナシ

第二百二十三條 召喚狀ニハ被告事件被告人ノ氏名住所職業出頭ノ日時場所及ヒ之ヲ發スルノ年月日ヲ記載スヘシ

召喚狀ハ第八十三條ニ從ヒ之ヲ送達シ路程ノ猶豫ノ外其送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ與フヘシ

第五章 被告人訊問

司法警察訓則